

専修学校留学生就職アシスト事業

関西型専修学校留学生就職支援システム・拠点整備事業 実施報告書

平成25年度 文部科学省委託事業



一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

平成 25 年度文部科学省委託事業「専修学校留学生就職アシスト事業」
関西型専修学校留学生就職支援システム・拠点整備事業
実施報告書

目次

はじめに.....	3
第 1 章：委託事業の概要.....	5
1. 委託事業名	5
2. 委託事業実施期間.....	5
3. 委託事業の目的	5
4. 専修学校各種学校、地元産業界等との連携体制.....	5
5. 委託事業の概要	6
6. 委託事業の成果	10
7. 今後への提言	11
(1) 次年度以降における課題.....	11
(2) 今後への 5 つの提言.....	12
第 2 章：事業別成果報告.....	13
1：多言語サイトの構築と海外への留学情報発信.....	13
1 - A： 職業人育成ガイドの発行.....	13
1 - B：WEB 上での多言語サイトの構築.....	15
2：海外とのネットワーク構築及び拠点整備検討委員会の実施.....	19
2 - A： 海外拠点整備検討委員会の実施.....	19
2 - B：現地職業教育連携のモデル事業の実施.....	21
3：専修学校留学生のインターンシップを取り入れた職業教育モデル構築事業.....	24
3 - A：日本型デュアルシステムの活用を含めたインターンシップを取り入れた 留学生のための職業教育モデルの構築.....	24
3 - B：留学生職業人育成セミナー及び日本語学校との連携事業.....	27
4：留学生採用意欲を持つ中小企業と専修学校との連携事業.....	51
4 - A：留学生採用企業交流会の実施.....	51
5：専修学校の日本人学生の国際化事業.....	58
5 - A：海外研修実態調査.....	58

第3章：「関西型専修学校留学生就職支援システム・拠点整備事業」のまとめ.....	60
(1) 委託事業の成果.....	60
(2) 次年度以降における課題.....	61
第4章：提言 2014	62
(1) 趣旨	62
(2) 5つの提言.....	62
第5章：成果の普及.....	65
(1) 事業の周知実績.....	65
(2) 報告書配布先	65
(3) 広報予定	65
事業実施体制.....	66

「大阪府内の高等教育機関における日本人の海外研修実態調査」調査結果レポート

(5-A.海外研修実態調査 成果物)

はじめに

一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会（以下「大専各」と記す）の留学生委員会に与えられた使命、役割は、専修学校専門課程（以下「専門学校」と記す）に在籍する外国人留学生が高度人材または中核的専門人材として活躍できる環境を構築することです。さらに、近年日本企業のASEAN諸国への進出が加速しており、出身国での就職環境を整えることの必要性も高まってきました。アジア諸国の市場環境の急変により、当委員会の活動もさまざまな対応が必要となっているところです。

このような環境の中でニーズに応えるには強力なネットワークづくりが不可欠です。大専各としてはこの数年の活動により、産・官・学との連携ができるようになってまいりました。大阪府との実質的な事業連携がスタートし、オール大阪体制が構築されつつあります。外国人留学生を受け入れている大学や日本語学校との連携によって、外国人留学生にとっての学習と生活の質を高め、大阪が外国人留学生にとって優しく快適であるという評価を得られるよう努力を重ねているところであります。

本年は日本語学校にベトナムを中心としたASEAN諸国からの留学生が急激に増加しているため、就職志向の強い外国人留学生が増えてきています。大専各では大学・日本語学校との連携を深め、適切な受け入れ促進と正確な職業教育の内容を紹介する機会を増やしています。従来から、進学先を大学と考える学生が多いのは事実ですが、昨今は早期就職を目指し、職業スキルが身につく専門学校進学を希望する学生が増えてきています。これを受けて、大専各ではさらなる職業教育の充実に努める所存です。

また、この5年間文部科学省の予算を活用させていただき、留学生支援のインフラを整えてまいりました。今後も時代の大きな変化を受けとめ、これから始まる専門学校の「職業実践専門課程」を視野に入れながら留学生支援事業を続けてまいりますが、文部科学省のご支援に対して心から感謝申し上げますとともに、引き続きのご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会

理事長 福田 益和

日本企業の海外進出に拍車がかかりだしました。消費人口が減少する国内だけで事業展開することに限界を感じ出したのではないのでしょうか。大企業はもちろんのこと中小企業の海外進出も目立ち始めました。そのため、グローバル人材育成の必要性が一層高まっています。大専各では、ここ5年間文部科学省のご支援を受けて、関西企業の人材のグローバル化に貢献してまいりました。これまで中国の留学生の増加が顕著でしたが、昨年あたりからベトナム、ネパールの留学生が急激に増加し、新たな課題として日本語力の強化策が浮かび上がってきました。これらの課題解決を視野に入れながら彼らの進路を考えますと、大学進学が中心ではありますが、就職にも強い希望を持っているため専門学校への進学も見直されています。本事業では、職業人育成ガイドを作成して、数多くの専門学校卒業生が企業に就職している状況を告知したり、大専各のホームページを一部多言語化し、多国籍の学生に対応しています。

日本に来る外国人留学生は、母国で大学を卒業した後、日本語学校へ入学する外国人留学生が増加し、その後大学院進学も増えていますが、比較的短期間で就職できる専門学校進学も視野に入り始めています。しかしながら、専門学校の教育分野により専門士として就職できる職種はいまだに制限されています。そのため早期の在留資格の緩和は重要です。

このように厳しい環境下ではありますが、充実した試みとして、専門学校と日本語学校が連携して外国人留学生対応を行なっています。具体的には日本語学校に在籍する外国人留学生に職業教育を理解してもらうための出張授業を実施しています。これは外国人留学生に専門学校のカリキュラムを正確に理解してもらうことによって、日本語学校の先生方に納得のいく進路指導を行っていただくことが目的です。

次に外国人留学生が日本の企業を正しく理解することを促進するため、グローバルインターンシップ事業を2011年にスタートしました。この事業により就職が促進され、本年度はこの制度によってさらに全国の企業との橋渡しが一層進むことを目指し、一般財団法人職業教育・キャリア教育財団と連携して実施いたしました。インターンシップによって外国人留学生の日本企業理解が進み、ミスマッチが減ることも事実です。そのため今後もグローバルインターンシップの試みが一層強化されていくようサポートしてまいります。

最後に2011年より進めてきた留学生基礎力を国内の日本語学校だけでなく、世界の日本語学校に活用していただくために、昨年よりホームページ上に留学生基礎力教材をダウンロードできる体制を整えることにしました。また本年度から日本に憧れを持つ世界の日本語学習者に日本就職の機会を増やす試みとして職業人育成ガイドの英語、中国語、ベトナム語化を実施いたしました。今後、この教材を活用して日本就職への意識が高まり、多くの外国人留学生が日本への留学を希望することを期待しています。

今後は、ASEAN各国に向けた一層の多言語化も進めてまいりたいと考えております。

一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会
留学生委員会 委員長 長谷川 恵一

関西型専修学校留学生就職支援システム・拠点整備事業

第 1 章：委託事業の概要

1. 委託事業名

関西型専修学校留学生就職支援システム・拠点整備事業

2. 委託事業実施期間

平成 25 年 7 月 12 日から平成 26 年 3 月 14 日まで

3. 委託事業の目的

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会(以下、「大専各」と記す)は、過去 4 年間に文部科学省の「専修学校留学生総合支援プラン」の事業受託を受けて「関西型留学生就職支援基盤の構築」、「関西型留学生就職支援基盤の活用」事業を推進した。

同事業の成果として専修学校留学生の受入の整備、留学生のための職業教育「留学生基礎力」の開発と定着、これらを核として産・官・学の連携による専修学校留学生の採用促進のためのグローバルインターンシップの実施を通して連携の強化を図り、結果として関西地域に強いネットワーク形成を実現した。今年度は、この基盤の活用を前提に、地域中小企業の海外進出に伴うブリッジ人材の養成を、職業教育を担う専修学校の役割としてとらえている。現在企業は多国籍な人材確保を要望しており、このニーズにこたえるため、海外拠点の整備と、多言語での受入のための情報発信を行い、地域中小企業のニーズにマッチしたブリッジ人材の提供を社会システムとして定着させる事業を行うことを目的とした。

4. 専修学校各種学校、地元産業界等との連携体制

本事業は、大専各が核となって、関西地区の専門学校、日本語学校に呼びかけ、留学生採用に興味をもっている企業や、商工会議所などの経済団体の協力を得て、関西に専修学校留学生の日本就職を社会システムとして定着させることを目的として、企業採用交流会、日本語学校教員対象専修学校職業人育成セミナー、日本語学校出前授業などを実施した。

大専各の中では、留学生委員会のメンバーが幹事校を務め、ワーキンググループを構成し、事務局と共に運営・企画を担う。事業は、大専各の会員校を中心に関西の専門学校にも参加を呼びかけた。

企業の留学生採用のニーズの反映と受入れ促進を目的として、大阪商工会議所、大阪府、一般財団法人大阪労働協会の協力を得て、企業採用交流会などを通して留学生採用の機運を盛り上げた。

また海外とのネットワーク構築及び拠点整備検討を通して、ベトナムの学校とのネットワーク構築、モデル事業が実施され、海外の教育機関への職業教育での連携のモデルを作った。

さらに、WEB上でのワンストップサービスを目指した国内外向けの留学・就職支援サイト構築と多言語化の推進で、海外の諸機関への発信が可能となった。

5. 委託事業の概要

(1) 多言語サイトの構築と海外への留学情報発信

1-A. 職業人育成ガイドの発行

職業人育成ガイドは、専門学校進学を考えている留学生、国内外の日本語学校、留学生の採用を検討している企業の方々に役立つ有益な情報源として位置付け、留学生の受入から卒業・就職まで、専門学校における教育の流れと役割を明確にし、年々多様化する留学生の活躍状況を紹介する就職・進学事例も多数掲載して、閲覧者が有効活用できる冊子として作成した。

また、専門学校の職業教育の内容及び留学生の受け入れ状況が一覧できる情報カードも昨年同様、見やすい形式で掲載し、専門学校を容易に比較検討できるようにしている。

さらに、本冊子の掲載情報を多言語化し、大専各のホームページにおいて閲覧可能とするなど、作成効果が最大限発揮できることを目指した。

1-B. WEB上での多言語サイトの構築

WEB上でのワンストップサービスを目指した国内・海外向け留学・就職支援サイトの構築を進めた。従来、主なホームページ利用者層として想定していた留学生を担当する教育機関の担当者、日本語学習者、企業に加え、海外の利用者も想定しサイト構築を行った。

当初、職業人育成ガイドに一部加えた内容をサイト内で補足する予定であったが、今年度職業人育成ガイドがさらに充実したことに伴い、ガイド内容をそのまま多言語化しサイト上に展開することとした。

具体的には比較的ニーズの高い3言語（英語、中国語、ベトナム語）への対応を行なった。サイトのトップページに英語、中国語、ベトナム語の切り替えスイッチを作成し、それぞれの言語でサイトを構築し、海外からの直接の情報検索にも対応可能にした。

また、留学生の就職支援としてE-learningで学習できるビジネス日本語の問題を提供した。今後も、ビジネス日本語のコンテンツを増やし、留学生の就職支援を押し進めたい。

サイト利用状況 2014年2月20日現在

訪問数 1,780

ユーザー数 1,041

ページビュー数 9,468

多言語化状況

職業人育成ガイド・・・英語、中国語（簡体字のみ）、ベトナム語

(2) 海外とのネットワーク構築及び拠点整備検討委員会の実施

2-A. 海外拠点整備検討委員会の実施

当初の目的では、産官学の実施委員会を構成し、中小企業の進出が進むベトナムを対象国として代表団を形成して海外視察と現地教育機関との協議により現地職業教育の連携の可能性と留学生の送り出しについての可能性の検討の協議をすることとしていた。

しかしながら、事業の実施計画段階で、近年のベトナム人留学生の急増からくる問題点がワーキンググループ校より出され、今年度事業の目的を現地の留学生送り出しの調査とその実態の把握に置くこととなった。その調査として代表2名が現地を訪問し、現地の状況の把握を実施した。また現地の教育機関との連携は2Bの事業へまとめることとした。詳細の報告については個別事業を参照してほしい。

2-B. 現地職業教育連携のモデル事業の実施

日本の専修学校の教育内容を海外でよりよく理解していただくため、現地教育機関の協力のもと、大阪府内の専修学校による出前授業を海外教育機関にて実施することにより職業教育連携モデルを構築した。具体的には、対象国をベトナムに置き、大専各がこれまで連携の模索を進めてきたドンズー日本語学校(ホーチミン)にて工業分野2校の授業を実施した。

(3) 専修学校留学生のインターンシップを取り入れた職業教育モデル構築事業

3-A. 日本型デュアルシステムの活用を含めたインターンシップを取り入れた留学生のための職業教育モデルの構築

日本型デュアルシステムの活用を含めたインターンシップを取り入れた留学生のための職業教育モデルの構築を推進するにあたって、今年度はその構築の第一歩として大阪府内の専修学校の留学生受け入れとインターンシップの活用の現状の把握の調査と分析を実施した。具体的には、本事業実施の「職業人育成ガイド」にて「留学生受け入れ状況」と「インターンシップ状況」を調査しており、このガイドの回答結果を取りまとめ、分析することとした。結果として、現在留学生が在籍している82校中、留学生のインターンシップを実施している学校が41校あった。専門学校は従来より職業体験、企業見学、企業実習を関連業界との連携で取り組んでいる学校が多く、すでに多くの学校がこれを活用して留学生へのインターンシップを実施している姿が浮かび上がった。今後も、この「職業人育成ガイド」にて「インターンシップ状況」を継続的に調査し公開すること、企業交流会や研修会などで実施している「インターンシップの活用と企業就職」の情報、経験交流を活性化すること、留学生の職業教育でのインターンシップの普及をすることなどに努めることが肝要だと考える。

3-B. 留学生職業人育成セミナー及び日本語学校との連携事業

留学生の就職サポートを行うには、専門学校の中だけでなく日本語を学ぶ段階から実施することが、より効果的であり、その為には、海外から最初の受入れとなる日本語学校と専門学校との職業教育の連携を構築する必要がある。そこで、今年度の【留学生職業人育成セミナー】は2部構成とした。

第1部のセミナーでは3段階の組み立てとし、1段階目は『留学生採用企業 実績紹介』として外部講師（企業経営者）に講演いただいた。留学生を採用するにあたって求められる資質等の講話をお願いし、2段階目の『平成24年度連携授業 実施校実績・成果報告』では、昨年度この事業を通じて実施した【日本語学校との連携事業（出前授業）】の実施内容や受講した留学生の反応等の事例発表を行った。

また、3段落目として連携事業（出前授業）を受入れた日本語学校の立場から、この出前授業をどう活用し留学生にとってどう効果があったかなどの報告として『平成24年度連携授業受入れ校実績報告』を行い、これからの受入れを検討する日本語学校教員へ訴求した。次に、第2部交流会では各専門学校担当者との意見交換が図れる機会を設けたことで、参加者が少数ながらも予定時間をオーバーする状況で、参加者には十分な情報提供ができ、満足して頂けるセミナーとして終えることが出来た。

なお、日本語学校教員の参加者数が思う程募れなかったことで、セミナー当日に配布したリーフレット〔出前授業実施内容一覧〕を不参加の日本語学校に送付した。

結果、最終的な出前授業の実施は19講座となった。但し、これは今回、大専各事務局を窓口とした講座しか確認ができず、昨年度より継続実施している出前授業については大専各事務局を窓口としていないため、全体数を掌握出来ないがかなりの件数が実施されている。

平成25年11月16日 実施

参加人数 35名（内訳：日本語学校6校7名／専門学校9校12名／ケーススタディ発表者3校3名、1社1名／留学生委員会等12名）

<昨年度比（参加者数）77.8%（昨年度45名）>

<昨年度比（日本語学校数）6校46.2%（昨年度13校）>

(4) 留学生採用意欲を持つ中小企業と専修学校との連携事業

4－A. 留学生採用企業交流会の実施

大専各として「留学生の（大阪での）就職」に取り組んで以来、毎年実施してきた事業であるが、今年度は過去最大規模での実施ができた。何よりも「事業内容」として掲げていた「産」「官」「学」連携において、大変実りのある会になった。後述する参加者数にも見て取れるように行政関係者の参加も多く、企業にとっても安心感を与えたのではないかと感じた。外国人就労については、民間のみならず、行政関係団体も積極的に取り組んでいることが示せたのは、有意義であった。

ディスカッションをするにあたって、10名前後のグループに分かれ、自己紹介時に、企業参加者には「企業における留学生採用の基準、優秀な留学生を採用するために重視されている点」「留学生採用時の課題」という2つのテーマで述べてもらい、教育機関関係者には「留学生数」「留学生の就職・進学状況」「留学生に関する取り組みや課題」という点で述べてもらった。そこでお互いの課題、方針を聞いた上で、自由に発言していただいた。各々の立場で抱えている問題や不安について、意見交換が行われた。今後留学生の受入れを実施しようとする企業と教育機関は実績のある機関と積極的に交流を持っているようであった。

当初予定の1時間という設定はあまりにも短かったようで、結果的には2時間近く話し込まれる方もおられ、このような会合が意味のあるものであることを再認識した。

(5) 専修学校の日本人学生の国際化事業

5－A. 海外研修実態調査

専修学校の国際化のもう1つの柱である日本人学生の海外送り出しによる日本企業の国際化の要請にこたえるための事業を推進した。今年度は府内の専修学校の海外研修の実態調査を実施した。調査内容は大阪府内の専修学校へのアンケート調査と海外研修実施校のヒヤリングによる調査である。府内の専修学校へのアンケート調査により111校の回答を得る。またそのうち1校のヒヤリングも実施した。結果として40%強の学校が何らかの形で海外研修を実施しており、専修学校の海外研修が積極的に実施されている状況が分かった。府内において専修学校の海外研修を全体として把握する調査は、これまでされたことがなく、調査として意味深い取り組みとなった。

6. 委託事業の成果

本事業は、事業目的の欄に記載されているとおり、地域中小企業の海外進出に伴うブリッジ人材の確保を、専修学校の留学生受入れと日本就職を通して社会システムとして定着させることにあった。具体的目的は、①多国籍な人材確保のための国内、海外とのネットワーク作りと情報発信、②中小企業のニーズにマッチした人材育成を専修学校へ取り入れるの2点に絞られる。全体の成果としては、これまで取り組んだワンストップサービスのネットワークとスキームの確立で取り組んだ成果を生かして、上記2点の目的に向けての事業を実施・達成できた。個別事業においては、今年度の反省事項として、取り組む事業が他項目にわたり、集客等で十分な成果がでなかったことである。

各事業の成果については下記の表でまとめる。

事業名	期待する成果	目標	評価指標	実績
1-A 職業人育成ガイドの発行	国内外留学生送り出し機関への理解促進	府内専修学校のガイドとして発行と配布	成果の普及として配布件数500機関	総ページ数116ページ (昨年度110ページ) 留学生受け入れ校82校 (昨年度比105.1%)
1-B WEB上での多言語サイトの構築	海外への情報発信と多国籍留学生確保のためのプロモーション	サイトの完成	運営者の自己評価	職業人育成ガイドの多言語サイト制作 (英語・中国語・ベトナム語) 留学生向け総合支援サイトの構築
2-A 海外拠点整備検討委員会の実施	海外拠点整備のための施策立案、方策提言	海外視察1回。方策提言のとりまとめ	運営者の自己評価	海外視察1回/方策提言のとりまとめ
2-B 現地職業教育連携のモデル事業の実施	海外送り出し機関への日本の専修学校における職業教育の理解促進と留学生送り出しの促進	海外目標拠点での授業実施。参加専門学校の目標2校、現地学校の各授業40人	参加学生、参加機関の満足度 アンケート調査	講座実施校 参加人数 合計49名 <内訳> ①日本の伝統建築と近代建築・住宅模型作製講座 【参加人数 30名/実施校 修成建設専門学校】 ②ロボット・制御講座 【参加人数 19名/実施校 日本理工情報専門学校】
3-A 日本型デュアルシステムの活用を含めたインターンシップを取り入れた留学生のための職業教育モデルの構築	企業ニーズを踏まえた人材育成のノウハウ開発と専修学校へのノウハウ提供	モデル開発専門学校3校以上	開発担当校数及びモデル開発成果の実施委員会での評価	留学生受入状況で留学生を受け入れている専修学校66校中留学生へのインターンシップ実施校41校。 すでに活発なインターンシップの取り組みがされている状況であることがわかり、専修学校の職業教育の質の高さを再確認することができた。
3-B 留学生職業人育成セミナー及び日本語学校との連携事業	留学生送り出し機関＝日本語学校への職業教育の理解促進	セミナー参加70名以上	参加者の満足度調査	参加人数35名 <内訳> ・日本語学校6校7名・専門学校9校12名 ・ケーススタディ 発表者3校3名、1社1名・留学生委員会等12名
	留学生送り出し機関＝日本語学校への職業教育の理解促進	参加専修学校10校以上、参加日本語学校10校以上	参加日本語学校の満足度調査	日本語学校6校から専門学校13校に対して連携授業講座の申込みがあった。連携授業3月28日までの実施完了については19講座となった。
4-A 留学生採用企業交流会の実施	企業ニーズの反映と専修学校における留学生育成事業の周知および理解促進	参加企業40社	参加企業数及び満足度調査	参加人数62名 <内訳> ・企業29名 ・学校6名 ・行政13名 ・留学生委員会等14名
5-A 海外研修実態調査	日本人学生の海外送り出し促進のための基礎調査の完成。 ニーズの反映	府内専修学校へのアンケート調査。ヒヤリング実施1学校以上。	実態の把握状況の自己評価	・専修学校アンケート調査実施 →111校中海外研修実施校45校。 ・大学アンケート調査実施 ・上田安子服飾専門学校へのヒヤリング調査の実施

7. 今後への提言

(1) 次年度以降における課題

平成 21 年度から 5 年間で大専各において実施した事業を通じて、受け入れから送り出しまでのワンストップサービスのスキームの確立また、そのサービスを実現するための産官学のネットワーク形成に取り組んできた。今年度は先の 4 年間の基盤の活用に焦点を置き、WEB を活用した多言語の情報発信、ベトナムの留学生送り出し状況の調査、ベトナムの教育機関との職業教育連携、日本語学校との連携強化、企業との連携強化の事業を推進し、専修学校の留学生就職を関西の地域に定着させるべく全体を牽引してきた。

次年度以降の課題としては、上記の成果を踏まえ、これまでの網羅的な事業展開から、重点的、集中的な取り組みに転換していくことが求められている。例えば、地域中小企業と結び付いた専修学校留学生の就職促進や、ASEAN を中心とした多国籍な留学生の受け入れに伴う新たな課題への対応である。

具体的には以下の課題がある。

1. 多国籍な留学生の受け入れの促進のために、WEB を活用した多言語の情報発信を開始するまでになったが、目的を見極め開発と運用方法の検討が必要である。
2. 留学生受け入れが促進された結果として、多国籍な留学生受け入れが活性化してきているが、新たな課題も浮かび上がっている。それは非漢字圏からの留学生の日本語教育や、開発途上国からの留学生の生活支援など、受け入れ体制の未整備にも関わらず、性急な留学生受け入れが進んでいることからくる課題である。これらは関西の専修学校でまだ顕在化している課題ではないが、今後顕在化する可能性が高く、専修学校として留学生受け入れの一翼を担う立場で、十分な整備を進めるとともに、大学、日本語学校と連携を取って課題解決に取り組む必要がある。
3. 国内外の機関への専修学校の魅力発信と、これらを実地体験する連携授業実施の推進などによる、日本の専修学校教育の普及、プレゼンスの向上への努力が必要である。
4. 地域中小企業、団体との連携強化により、専修学校留学生の就職促進に焦点を置いた啓発事業や、インターンシップ事業の運用改善や強化が必要である。
5. 多国籍な留学生受け入れにともない「留学生基礎力」を改善するとともに、国内外へ普及する。同時に、専修学校の日本人学生へのグローバル教育の展開のためにも、留学生基礎力を活用したグローバル教育へ深化させる取り組みが必要である。

(2) 今後への5つの提言

留学生に対する職業教育の質の高さと産官学の強い絆を持つ私たち関西の専修学校は、これまでの成果をより推進するため、重点的な施策の実現、新たな課題の解決をリードすべき立場にあると自負している。そのため、これまでの提言内容を踏まえ、今年度は以下のを、行政、業界団体、産業界へ提言する。

提言1 多国籍で多様な文化を持つ留学生の受入れ体制の整備・拡充を。

提言2 留学生を日本に引き付ける日本の魅力と専修学校の職業教育の魅力を世界へ発信。

提言3 留学生基礎力の拡充、専修学校の留学生職業教育・グローバル教育の深化と普及を。

提言4 留学生就職支援基盤の充実により専修学校留学生の更なる就職促進を。

提言5 専門学校の各分野留学生の日本就職の制限となっている「在留資格制度」の早期の改定を！

第2章：事業別成果報告

1. 多言語サイトの構築と海外への留学情報発信

1-A. 職業人育成ガイドの発行

1. 目的・ねらい等

職業人育成ガイドは、国内外の日本語学校や企業の専門学校に対する理解を促進する目的で、留学生の受入から卒業後の就職・進学まで、専門学校における教育の流れを明確にして作成、改訂を重ねてきた。

今では、国内外の日本語学校の先生方が進路指導に役立っているだけでなく、留学生採用を検討している企業の方々や専門学校進学を考えている留学生達にとって、重要かつ有益な情報源となっている。昨年の改訂時には新たに母国でブリッジ人材、Uターン人材として活躍する就職事例を掲載し、専門学校卒業後の幅広い活躍状況を伝えて企業の方からも好評を得た。今年は掲載数の少ない国籍学生の就職事例や母国における活躍事例を増やし、また新たな事例として、今年内定を得たばかりのフレッシュな事例や、将来の夢に向かって大学院へ進学、あるいは大学に編入した事例なども掲載し、年々多様化する留学生の活躍状況を伝えることができるよう、更なる内容の充実を図る。専門学校への理解促進ページについても、昨年の内容をベースに充実を図り、受入から卒業・進学・就職までの流れが容易に把握できるよう内容の見直しを図る。専門学校の職業教育の内容及び留学生の受け入れ状況が一覧できる情報カードについては、昨年の形式を踏襲し、情報量の豊富さと見やすさに重点を置いて作成する。また、WEBサイトと連携し、継続して多言語展開も行う。

2. 関連して行った事業名

「1-B. WEB 上での多言語サイトの構築」

「3-B. 留学生職業人育成セミナー」

3. 実施結果

「職業人育成ガイドの作成」

(1) 総ページ数

116 ページ（昨年度 110 ページ）

(2) 掲載内容

留学生受け入れ校 82 校の情報掲載

（昨年度情報掲載校 78 校 昨年度比 105.1%）

専門学校卒業後に活躍する元留学生たちの紹介者数 56 名

（昨年度紹介者数 37 名 昨年度比 151.4%）

(3) 活用状況

「留学生職業人育成セミナー」にて普及。

成果物：「職業人育成ガイド」

4. 当初目的の達成状況

専門学校を理解を促進するページについては、説明の追加、よりの確な表現への変更、図の効果的な使用などにより、昨年よりも分かりやすい情報として掲載することができた。

卒業後の事例については、就職事例だけではなく、大学院・大学への進学事例や、内定を得たばかりのフレッシュな事例も掲載でき、卒業後の幅広い進路を紹介することができた。また、昨年は掲載事例の国籍が中国人・韓国人卒業生に偏りがちであったこと、ベトナム人留学生が急増している現状を考慮し、ベトナム人卒業生の事例を増やすとともに、その他の国籍についても掲載事例を増やすことができた。

留学生受入校の詳細内容を掲載した情報カードは昨年より4校増えて82校の掲載となり、豊富な情報による閲覧者の満足度をさらに高めることができた。WEBサイトによる多言語展開についても、予定スケジュールで満足いく内容に仕上がりに、全体として、重要かつ有益な情報源としての完成度を高めることができた。

5. 成果

「留学生職業人育成セミナー及び日本語学校との連携事業」での配布、「留学生採用企業交流会」での配布、専門学校・日本語学校、企業及び行政の担当者など、留学生関連の業務に携わる多くの方々への配布、更には、WEB媒体の利用による多言語展開による告知など、広く普及・活用することが出来た。更に、海外拠点整備検討の現地視察においても、本冊子を有効に活用して円滑な活動に結びつけることができた。

6. 成果物

『平成25年度 職業人育成ガイド』

7. 次年度以降における課題・展開

就職・進学事例の更なる充実及び情報カードの掲載校増を図る。また、情報カードについては、掲載形式及び学校名のローマ字表記の統一など、微調整の見直しも検討する。掲載情報のWEB展開については今回の多言語化をベースとし、対応言語を増やすことも検討する。

1-B. WEB上での多言語サイトの構築

1. 目的・ねらい等

WEB上でのワンストップサービスを目指した国内・海外向けの留学・就職支援サイトの構築を進める。このため、サイト内には留学生のための就職・生活支援情報、ならびにこれを支える学校等担当者のための情報提供・相談サイトを組み込むとともに特に海外の学生に対しての有効な「職業人育成ガイド」の内容の多言語化とそこに至るまでのサイトの多言語化を目指す。特に、「職業人育成ガイド」は国内の留学生が専門学校に進学を検討するのに有効なガイドであるとともに企業にとっても留学生採用を検討する際の有効な情報源となっている。さらにこの多言語化を進めWEB上に掲載することにより海外の学生に対しての日本への留学促進ツールとしての機能強化を図る。具体的には以下の手順でのサイト構築を実施する。

- ①職業人育成ガイドの発行
- ②同ガイドの多言語化とサイト登録(英語、中国語、ベトナム語)
- ③留学生向け総合支援サイトの構築

2. 関連して行った事業名

「1-A. 職業人育成ガイドの発行」

3. 実施結果

従来、主なホームページ利用者層として想定していた留学生を担当する教育機関の担当者、日本語学習者、企業に加え、海外の利用者も想定しサイト構築を行った。当初、職業人育成ガイドに一部加えた内容をサイト内で補足する予定であったが、今年度職業人育成ガイドがさらに充実したことに伴い、ガイド内容をそのまま多言語化しサイト上に展開することとした。

具体的には比較的ニーズの高い3言語（英語、中国語、ベトナム語）への対応を行なう。サイトのトップページに英語、中国語、ベトナム語の切り替えスイッチを作成し、その下にそれぞれ、英語、中国語、ベトナム語でサイトを構築し、海外からの直接の情報検索にも対応可能にした。特に、専門学校における職業教育の内容理解を深めるページ、企業で活躍する留学生の紹介、留学生の受入状況などが人目でわかる情報カード掲載などを多言語化したことにより、日本の専修学校及び専修学校制度の理解促進、入学から在学中の学習内容、さらには就職と企業での活躍までを紹介、日本への留学とその後のキャリア形成を具体的にイメージできる、有効な情報提供ツールとなった。

また、留学生の就職支援としてE-learningで学習できるビジネス日本語の問題を提供した。今後も、ビジネス日本語のコンテンツを増やし、留学生の就職支援を押し進めたい。

サイト利用状況 2014年2月20日現在

訪問数 1,780

ユーザー数 1,041

ページビュー数 9,468

多言語化状況

職業人育成ガイド・・・英語、中国語、ベトナム語

4. 当初目的の達成状況

大専各留学生支援サイトにおいて職業人育成ガイドの内容を中心とした多言語（英語、中国語、ベトナム語）での情報提供を行なえる体制を構築した。これにより、国内外に対し大専各の活動を始め、大阪の専門学校での留学生活から卒業後の活躍の可能性を生き生きと紹介し得るサイトとなった。

しかし、今年度は職業人育成ガイドの完成を待ってからその翻訳を行いサイト上にアップしせざるをえなかったため、本格的に多言語で情報提供できたのは1月に入ってからであり、周知の期間がまだまだ不足している状態である。多言語サイト構築という点においては当初の目的を達成していると考えるが、その本来の狙いに対しては継続的な活動が求められる。

また、このサイトでの情報発信を通じ、大阪府や（公財）大阪府国際交流財団との連携強化（ネットを使った情報提供体制の強化）、（一財）職業教育・キャリア教育財団との連携強化（ネットを使った情報提供体制の強化）といった点では一定の効果を上げたと考えている。

5. 成果

職業人育成ガイドを多言語にすることにより、海外への情報発信の準備が構築できた。日本国内はもとより、海外からのアクセスも徐々に増え、さらに継続的な情報交換の場として交流広場を展開した。

6. 成果物

WEBへの職業人育成ガイド（英語、中国語、ベトナム語）アップ
留学生就職支援のため、ビジネス日本語のコンテンツをアップ

7. 次年度以降における課題・展開

今年度は海外への情報発信も視野に入れWEBサイトの多言語化を進めたが、サイト内容をより良くしていくとともに、サイト自体の存在を認知してもらうことも大切である。

様々な機会を捉え、このサイトの認知度をより向上させていくことは一つの課題である。

留学生を支援するためには母国での学習、留学先の情報収集、日本での学習、企業への就職まで様々なフェイズがある。WEBはこれらをトータルにサポートしていくための有効なツールであり、今後、このサイトを継続的に育て、本サイトの認知向上に努めたい。

2. 海外とのネットワーク構築及び拠点整備検討委員会の実施

2-A. 海外拠点整備検討委員会の実施

1. 目的・ねらい等

本事業実施に当たっては産官学で構成する実施委員会を構成する。この実施委員会のもとに海外拠点整備検討委員会を大専各の会員校ワーキングメンバーも加えて実施し、産業界のニーズに基づいた他国籍なブリッジ人材確保のための調査事業を実施する。初年度は、中小企業の進出が進むベトナムを対象国とし、海外視察と現地教育機関との協議により、現地職業教育の連携の可能性と専修学校への留学生送り出しの在りようの可能性を協議し、次年度以降の留学生受け入れに繋げる。

2. 関連して行った事業名

「2-B. 現地職業教育連携のモデル事業の実施」

3. 実施結果

昨年より日本ではベトナム人留学生が増加し、犯罪や不法滞在の課題が指摘されだした。ベトナム大使館からも各学校に留意喚起をする文章が発信されているところである。このような環境を是正するため色々な動きがあるが、大専各のメンバーが現地に赴いて調査したところベトナムのハノイに多くのエージェントが生まれ、色々な課題が発生していることが明らかになった。

4. 当初目的の達成状況

当初現地職業教育の連携の可能性と専修学校への留学生送り出しの在りようの可能性を協議する予定であったが、専修学校への送り出しの前の日本語教育機関の課題のほうが大きいことが分かり、専修学校に送り出す前の課題解決のほうにシフトした。

ただ職業教育の連携や専修学校への留学生送り出しの在りようについては、少し協議し、あまり問題はないことは分かったので、次年度以降の留学生受け入れには繋がる。

5. 成果

すでに多くの日本語教育機関が現地のエージェントと連携を深めており、今後日本語教育機関経由で専修学校がベトナム留学生を受け入れることについては明確になったことは成果だが、犯罪や不法滞在の課題を専修学校としては解決しなければならない。

6. 成果物

いくつかの留学センターを訪問したが、一番安全な留学生送りだし機関は日本政府関係機関であるVJCCだとわかった。今後VJCCとのネットワークを成果物として活用していくことが望まれる。

7. 次年度以降における課題・展開

〔課題〕

- 1 ハノイのエージェントが法外なコミッションを日本語学校に要求している。また日本の日本語学校がそれに応じておりその額も高騰している。
- 2 学生個人からエージェントが徴収する額も高騰している。
- 3 学歴詐称が発生している。日本の入国管理局もベトナムの認証制度が不十分なため、参考程度しか扱っていない。
- 4 経費支弁書類が信頼できない状況にある。
- 5 日本語能力不足の課題がある。
特にベトナム人留学生が日本に留学したいため、多くの借金を抱えて渡日してきているとのことである。この現状を早急に解決する必要がある。

〔展開〕（日本側）

- 1 課題1・2の対策は渡日した留学生のアルバイト対策である。来日時は半年ほどの資金は持ち合わせているが、その後は収入を得ないと学費と生活費はまかなえない。
大専各のメンバーが協力してアルバイト情報の共有を図り、学生に提供して必ず3ヶ月以内にアルバイトにつかせることである。
- 2 課題3の対策として学歴詐称を撲滅する。その対策として学歴認証制度はすべての留学申請者・日本語学校に義務付け、入国管理局にもそれを認める。
- 3 課題4に対する対策は、日本側からは学生に直接電話調査をすることである。と同時にV J C C等のエージェントにも協力を依頼して必要によっては現地調査をお願いする。

〔展開〕（現地側）

現地で拠点を設定する意図はあまりにも課題が多いために募集強化対策というよりも1から5の課題対策が優先される。そのため現地の信頼できる機関との連携が求められる。それはハノイのV J C Cしかない。そのため大専各の各校が協力してV J C Cに依頼する。

- 1 日本留学を決断する際に必要となる実用的かつ現実的な情報(例えば準備資金の総額はいくらか? 日本での生活費はどうか? 病気怪我の時はどうか? 進路・出口はどうか? など)をベトナム語で公開する。
- 2 人定調査・経費支弁調査を依頼する。
- 3 エージェントリストを作ってください公開する。

訪問先

- ・YUKI Japanese School
- ・ベトナム日本人材協力センター(V J C C)
- ・ICO International Joint Stock Company
- ・タンロン技術学院
- ・バックリエウ経済技術短期大学
- ・ホーチミン情報技術短期大学
- ・ドンズー日本語学校
- ・タイグエン経済財政短期大学
- ・アインサオ人材開発センター

2-B. 現地職業教育連携のモデル事業の実施

1. 目的・ねらい等

ベトナムとの具体的な連携のありようを、そして日本の専修学校の内容を理解していただくために、現地教育機関の協力のもとに、大阪府内の専修学校の電気・電子分野と建築・建設分野の2分野の教員の派遣による出前授業を海外教育機関との職業教育連携モデルとして実施することになった。具体的には大専各がこれまで連携の模索を進めてきたホーチミン市内にあるドンズー日本語学校において、日本理工情報専門学校と修成建設専門学校の連携授業として実施した。

2. 関連して行った事業名

3-B. 留学生職業人育成セミナー及び日本語学校との連携授業

3. 実施結果

ロボット・制御講座は10月29日、30日、31日の3日間で19名(うち聴講生4名を含む)が受講した。日本の伝統建築と近代建築・住宅模型作製講座は8月27日、28日の2日間で30名が受講した。

4. 当初目的の達成状況

①ロボット・制御講座

日本が最先端技術を持っているロボット関係や制御関係の独創的な技術の一端を理解してもらえた。また、ベトナムでは機器を使用した授業は少なく、今回の講座では実際の日本の機器を使用した実習を行い、体得してもらえた。

②日本の伝統建築と近代建築・住宅模型作製講座

日本の伝統の木造建築、現在の戸建て住宅の状況や近代建築などを通して高度な耐震技術の説明と、住宅模型作製によって日本の高い建築技術の一端を理解してもらえた。

5. 成果

このような特定分野の講座を開催するは、日本で学ぶ意義を理解でき、日本留学への最初の手がかりとして有効だったと思われる。

たとえば、ロボット分野の講座では、定員以上に關心のある学生が多く、日本で技術を学びたいと思っている学生が多数おり、この様な講座を行うことにより、さらに増えると思われる。また、建築分野の講座では受講者のうち10名は日本語学校の学生でなく、ホーチミン市立の建設専門学校の学生で、日本の専門学校での建築教育と資格に強い魅力を持ってもらえた。

6. 成果物

現地情報、アンケート

7. 次年度以降における課題・展開

講座に必要な機器類の国外への持ち出しには制限や禁止があり、講義に工夫が必要であること。日本語を学んでいるとはいえ、通訳を介した授業となり、もっと長めの時間帯の設定が必要である。2分野以外の講座も開催して、日本の専門学校教育の内容をPRしていくべきである。

実施報告書(日本語学校との連携授業)	
専修学校名	修成建設専門学校
担当講師名	塩田 久及、吉田 順一
日本語教育機関	ドンズー日本語学校(ベトナム社会主義共和国 ホーチミン市)
実施日時	平成25年8月27日(火)、平成25年8月28日(水) 8:30~11:30
対象者数	30名 (27日16名、28日14名)
講座名	日本の伝統建築と近代建築、住宅模型作製
実施概況	<p>【1】日本の伝統建築と近代建築(講義90分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本伝統の木造建築 伊勢神宮を例にあげ、木造建築の構造の特徴や式年遷宮等、日本文化の特徴の説明。 ・現在の戸建て住宅の状況説明、尺貫法・耐震構造 木造軸組工法・壁式構造・ハウスメーカーの住宅の特徴の説明。 新旧耐震構造の違いを動画によりレクチャーを行った。 ・近代建築 大阪の梅田スカイビル、東京スカイツリー等の建築物を例に挙げ、設計での検討事項・耐震構造や制振・免震構造の違い等を動画、スライドによりレクチャーを行った。 <p>【2】住宅模型作成(実習90分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模型の役割 業務での模型の目的、使用用途の説明。 各国で使用されている模型材料のステレンボードを使い、鉄筋コンクリート 構造2階建て住宅の模型製作の体験学習。
実施結果	<p>■講座実施における成果</p> <p>日本の木造住宅の設計方法や耐震構造、生活スタイルだけでなく、近代建築についても強く興味を持ってもらえることができた。日本留学が既に決定している学生も数名見られたが、今後、日本語学校卒業後の進路の参考になったのではないと思われます。またホーチミン市立の建設専門学校の学生や先生の受講があり、高い日本建築の技術の一端と建築士という資格の取得の重要性について理解してもらった。 日本留学が未定の学生においても、より日本語を勉強して留学をしたいとの声が多く聞こえたので、本講座は成功だと感じた。</p> <p>■その他反省点等</p> <p>日本の風土などを含めて説明すると90分の講義では時間が足らず、また質疑応答においては日本人学生よりも専門的な質問をする学生が目立った。その為、通訳の負担も大きく、翻訳に時間がかかる場面も多々見られた為、次回実施時には1回の授業を1日かけて実施する等、時間配分について日本語学校様と検討していきたい。</p>

実施報告書(日本語学校との連携授業)	
専修学校名	日本理工情報専門学校
担当講師名	南 和幸
日本語教育機関	ドンズー日本語学校(ベトナム社会主義共和国 ホーチミン市)
実施日時	平成25年10月29日(火)、30日(水)、31日(木) 8:30 ~ 17:00
対象者数	計15名 + 聴講生計4名
講座名	ロボット・制御 講座
実施概況	<p>【1】ロボット・制御・シーケンサの基礎知識(60分) ロボット・制御・シーケンサなどで基本となる、2進数や各パーツの知識、実社会や実生活での使われ方、制御の方法などを黒板やプロジェクター、コンピュータを使って学ぶ。</p> <p>【2】制御実習(100分) スイッチやLED、電子回路を使った、基本回路から制御にいたるまでの回路実習を、各個人がブレッドボード(実験用ボード)を使用して組立て、制御動作を体感する。</p> <p>【3】制御機械の実習(90分) PLC(シーケンサ)を使用して、ロボットで使用されているモーターや機械・機器を制御する課題を、各自がコンピュータを使用してプログラムを組み立てたのち実行し、動作確認を行う。</p> <p>【4】ロボット実習(90分) 二足歩行ロボットのシミュレーションを行なった。また、二足歩行ロボットの動きをコンピュータで各自プログラミングし、実際にどの様に動かすか実習する。各関節部分(機構)の動きを把握し、動作させる上でのポイントや工夫を学ぶ。</p> <p>【5】まとめ(15分) 今日一日の講義の感想やまとめ、技術的な質問に答える。</p>
実施結果	<p>■講座実施における成果</p> <p>ロボット関係や制御関係については日本が最先端技術をもっているの、日本の技術の高さや日本の独創的な技術を知ってもらえた。また、このような技術を今回学んだことにより、日本に留学しよう(日本の日本語学校や専門学校等に進学しよう)という学生もいた。</p> <p>よって、日本留学への最初の手がかりとして、かなり有効だったと思う。大学生もいたが、ベトナムでは機器や部品を使った実習の授業がなく、今回の講義は「大変役立った」「大変有意義だった」という意見が多かった。</p> <p>■その他反省点等</p> <p>講座内容が、ロボット・機械・制御系なので機器類の国外への「持ち出し制限」や「持ち出し禁止」があるため思うような数の実習機材・機器を使った講義ができないので工夫が必要であった。</p> <p>通訳をつけているが、工学系は特に専門用語を多用するので言葉が伝わりにくいところがあった。また、学力(学歴)や日本語能力がまちまちであったため、伝達時間に差ができてしまうことがあった。</p> <p>希望人数が多くおられた様子で、定員以上になり聴講という形での参加・見学もおられたので対応が不十分になってしまうことがあった。</p>

3. 専修学校留学生のインターンシップを取り入れた職業教育モデル構築事業

3-A. 日本型デュアルシステムの活用を含めたインターンシップを取り入れた留学生の

ための職業教育モデルの構築

1. 目的・ねらい等

外国人留学生の日本企業就職を進めるにおいて、留学生のインターンシップは、企業にとって外国人留学生の特性理解、活用の方策立案、社内の国際化の機運醸成に極めて有効な活動である。また外国人留学生にとっても、日本企業の企業文化を理解し、企業で求められる実践スキルの育成に極めて有効である。専修学校の教育は従来より、地域産業と密着した企業実習を実施しており、このノウハウを活用した留学生のインターンシップを教育課程の中に有効に位置付けたモデルを構築し、このノウハウを広く専修学校へ提供する。

2. 関連して行った事業名

「1-A. 職業人育成ガイドの発行」

3. 実施結果

今年度は、関連事業「職業人育成ガイドの発行」において、留学生受入状況と留学生へのインターンシップの有無を調査しており、この調査を活用して府内の専修学校での留学生インターンシップの状況をとりまとめた。

結果として、以下の状況であった。

職業人育成ガイド掲載校 82 校

留学生受入状況ですでに留学生を受け入れている専修学校数 66 校

66 校中留学生へインターンシップ実施校 41 校

専門学校においては従来より職業体験、企業見学、企業実習を関連業界との連携で取り組んでいる学校が多く、すでの多くの学校がこれを活用して留学生へのインターンシップを実施している姿が浮かび上がった。また実施の期間については、学生の長期休暇時期を利用して実施しているケースが多い。またインターンシップも日本人と同じ土俵で実施している学校が中心であった。

以下、インターンシップの状況についての記載を取り上げる。

- ・夏季休暇期間を利用して、希望職種に応じて約2週間から1ヶ月間程度の企業実習を行う。その実習を通じて各産業界の理解度を深め、卒業後の進路として見据える。
- ・一般学生と同様。インターンシップ案内を推奨。
- ・長期期間を利用して、設計事務所、建設会社等で行う。
- ・希望者に対して紹介、年間5社程度。
- ・春・夏休みの期間を利用して、企業でのインターンシップを実施。就職への強力な後押しになります。

- ・4年制課程の卒業前年次に実施し、学科別に実際の企業現場で研修して即戦力を養う特別学外カリキュラムです。プロをインストラクターとした長期間の実務体験によって、自信を育み、将来の展望を明確にすることができます。
- ・広告写真スタジオ、テレビ番組制作技術会社、音響・照明技術等でアシスタント研修。
- ・本人の希望に応じて、インターンシップ先や実施期間を個別に決定。
- ・有名ホテルのレストランや専門店でインターンシップを実施。
- ・春休み、夏休みを利用して、5日～10日の企業内実習を実施。
- ・「給食管理校外実習」という必須科目で実施。栄養士の実務内容を体験する。
- ・ホテル・リゾートホテルで実施。
- ・毎年夏季企業実習を実施するが、前期に実習前教育を実施し、事前の準備を徹底して行っている。企業実習では実際にお客様を相手に接客対応スキルを体得したり、正規社員とのチームワークを経験し、日本のビジネス現場を身をもって体験します。
- ・日本人学生と同じ条件の下、各希望職種によって個別対応する。
- ・アパレル企業で3週間～6カ月のインターンシップを実施。
- ・卒業前年次に実施し、就職活動前の就業体験を行います。希望の業種や職種にトライできる制度です。
- ・日本人では多数実施しているため、条件があれば紹介できます。
- ・採用選考型、キャリアアップ型、地域貢献型の3種類のインターンシップを実施しています。多くの企業連携で圧倒的多数のインターンシップを準備。最後は採用選考型につなぎ、就職内定まで導きます。
- ・日本人学生と同じ条件の下、各希望職種によって個別対応する。
- ・一定期間、学生を選抜して就業体験を実施。
- ・教育の一環として学生自らの専攻や将来のキャリアに関連した就職体験し、就職体験を通じて社会や企業の実情を知ることによって、仕事に対する興味・関心、学習意欲を高め、ビジネスマナーや就職意識を身につけることができると考えています。
- ・産学協同教育として、2週間～1カ月間企業の現場にて「業界研修」を実施します。単なる就業体験でなく、就職内定を獲得する手段として位置付けています。
- ・授業の一環として、2年次または3年次に動物病院において2週間のインターンシップを2回実施。
- ・トレーナー実習、社会体育実習。
- ・長期休暇期間中、2年間で最低12週間の実習を必須科目としている。
- ・宮崎県、兵庫県のホテルにてフロント業務、客室業務、飲料部門等の研修を実施。
(期間は3～4週間)、コールセンターの多言語サービス部門での電話通訳、ボランティア活動あり、商談会の通訳、イベントの通訳などを担当。
- ・本校での準備講座に加えて、各年次4週間の企業実習を実施。デザイン現場での実務を通じて、一連の制作プロセスを学び、企業が求める人材層の理解や必要能力を身につけ、就職につなげる。

以上の記載をみると、すでに多様な職業教育を実施する専門学校において、多様な職業体験、インターンシップが実施されており、留学生のインターンシップのモデル構築がすでに各専修学校の努力によってなされている状況が理解できる。

4. 当初目的の達成状況

当初は、専修学校の留学生就職に有効なインターンシップをモデルとして構築し、普及することを目的としたが、今回の調査で、すでに活発なインターンシップの取り組みがされている状況であることが分かった。

5. 成果

関連事業の「1-A 職業人育成ガイドの発行」は、よく専修学校の職業教育の質の高さを発信する内容となっており、今回もこの成果を活用した分析を行った。成果として、専修学校の職業教育の質の高さを再確認することができた。

6. 次年度以降における課題・展開

今後の課題として、今後もこの「職業人育成ガイド」にて「インターンシップ状況」を継続的に調査し公開すること、企業交流会や研修会などで実施している「インターンシップの活用と企業就職」の情報、経験交流を活性化し、留学生の職業教育でのインターンシップの普及に努めることが肝要だと考える。

3-B. 留学生職業人育成セミナー及び日本語学校との連携事業

1. 目的・ねらい等

留学生の就職サポートを行うには、専門学校の中だけでなく日本語を学ぶ段階から実施することが、より効果的であり、その為には、海外から最初の受入れとなる日本語学校と専門学校との職業教育の連携を構築する必要がある。そこで、日本語学校教員を対象とした【留学生職業人育成セミナー】を実施し、その中で職業教育の重要性を知ってもらい、その一連の流れ（成果）として【日本語学校との連携事業（出前授業）】へと繋げる。その結果として、専門学校と日本語学校との更なる連携強化となることを目的とする。

2. 関連して行った事業名

「1-A. 職業人育成ガイド」

3. 実施結果

(1) 実施内容

1) 第1部セミナーでは3段階の組み立てで、①『留学生採用企業 実績紹介』を始めとし、②『平成24年度連携授業 実施校実績・成果報告』③『平成24年度連携授業 受入れ校実績報告』と言った構成で、未実施の日本語学校教員へ訴求する。セミナー終了後の2部交流会では各専門学校担当者との意見交換が図れる機会を設定した。

2) 交流会（意見交換の場）のポイント

日本語学校教員へは、各専門学校より事前に提出してもらっている〔出前授業の概要（内容・時間・日本語レベル・受講対応人数等）〕を記載したリーフレットをセミナー参加時に配布し、直接、授業連携を検討する専門学校の担当者と交流（面談）出来るよう便宜を図った。

3) 広報活動

近畿、及び一部地方の日本語学校へのDM送付（郵送及び、E-mail）と電話案内、日本語学校訪問による動員を図った。

(2) 実施プログラム

「留学生職業人育成セミナー」

1) 開催日：平成25年11月16日（土）13:00～17:00

2) 会場：大阪工業技術専門学校（3号館）OCTモノづくり館

3) 参加人数35名（内訳：日本語学校6校7名／専門学校9校12名／ケーススタディ発表者3校3名、1社1名／留学生委員会等12名）

<昨年度比（参加者数）77.8%（昨年度45名）>

<昨年度比（日本語学校数）6校46.2%（昨年度13校）>

4) 当日のプログラム

司会：大阪工業技術専門学校 浜野 哲二

挨拶

大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会

清風情報工科学院 校長 平岡 憲人

【第1部】

「留学生の採用事例、現場で求められる留学生像」
株式会社 CORE 代表取締役 田内 比登志

「平成24年度連携授業 実施校実績・成果報告」

- ①大阪工業技術専門学校 宗林 功
- ②学校法人山口学園 木村 泰一

「平成24年度連携授業 受入れ校実績報告」

関西外語専門学校 御崎 規子

【第2部】

交流会&連携授業説明会

5) 当日配布資料

当日プログラム、日本語学校との連携授業に係わる注意事項とお願い、講座実施アンケート、職業人育成ガイド、専修学校連携授業内容一覧

4. 当初目的の達成状況

昨年度より、最終目的として【日本語学校との連携事業（出前授業）】の実施拡大を視野に入れていた為、大阪を初めとする近畿圏の日本語学校と昨年までに出席して頂いていた地方の日本語学校に案内をした。しかしながら、昨年度の開催効果もあり既に引き続き出前授業を導入している日本語学校も決して少なくなく、また、日本留学試験、日本語能力試験の影響もあり、想定をしていた程の参加数は見込めなかった。

達成状況：有意義度に関するアンケートでの評価（5段階評価の4以上の評価をつけた方の割合）

第一部：留学生採用企業実績紹介「留学生の採用事例、現場で求められる留学生像」	→ 71.5%
第一部：平成24年度連携授業実施校・成果報告「1 大阪工業技術専門学校発表」	→ 78.6%
「2 山口学園 ECC 留学生センター発表」	→ 71.5%
第一部：平成24年度連携授業受入実績報告「関西外語専門学校日本語課程発表」	→ 92.9%
第二部：「交流会&連携授業説明会」	→ 42.8%

上記の通り留学生採用企業実績紹介、連携授業実施校・成果報告、連携授業受入れ校実績報告に関して、高い評価を得た。実際に留学生の採用経験が豊富な企業からの発表に関しては、現場で求められる人材など日本語学校にとっては納得できる点が多かったようで参考にしたいという声が多く聞かれた。次に、「専門学校と日本語学校との連携事例発表」については、昨年同様に、専門学校が職業教育を出前授業と言う形で取り組んでいる事例について画像等を使いながら具体的に発表した事に加え、本年度は受入れ校の実績報告も実施したことにより、連携授業を単に体験するだけでなく、進学需要の掘り起こしや、授業を通して日本語教育にどのように生かされているかなど日本語学校の視点からの発表は、参加者から高い評価を得た。

5. 成果

「交流会&連携授業説明会」では、参加人数は少ないものの、授業について詳細に時間をかけて日本語学校と専門学校がコミュニケーションできる場となった。連携授業に関しては、短期的な取り組みだけではなく日本語学校のサマーコースや短期コースなどにもあわせてアレンジするなど、継続的に日本語学校が抱える課題に対応するべく継続的に取り組みたい。

6. 次年度以降における課題・展開

(1) 課題・展開

今年度のセミナー参加状況（日本語学校の参加者数）と、日本語学校訪問によるヒヤリング結果からも、次年度に於いて継続的なセミナーや交流会の開催は実施しないこととする。

しかしながら、日本語学校からのヒヤリングで【出前授業】を通じた専門学校の職業教育力の評価は非常に高く、また、日本語学校も今後の生き残りをかけて、専門学校との連携強化による魅力的なスタイルを模索している現状もあり、その要望に応えるべく【出前授業】の継続的な案内は、必要不可欠と思われる。次年度に於いては、大専各事務局が窓口となって専門学校の〔出前授業実施校一覧〕の整理や、それに伴うリーフレットの制作と案内を行う。但し、案内には単純なリーフレットの送付に留まることなく、日本語学校が出前授業を受け容れ易くする施策も含める。

(2) 連携授業実施状況

最終的に成立した連携授業は19講座（日本語学校6校、専門学校13校）あり、3月28日迄に実施を終える事となった。（別紙添付：詳細は「成立連携授業一覧」を参照。個別実施報告書については、2月5日までの実施内容のみ添付するものとする。）

今回連携授業の申込をいただいた日本語学校の中には、諸事情で育成セミナー当日（2013年11月16日）に参加頂けなかった学校が多い。

この結果からも日本語学校にとって専門学校との連携の必要性が窺われる。

次年度に於いては、この下地を基に専門学校が職業教育として提供可能な【出前授業】を始めとする講座等の開発を行い、更なる日本語学校との連携を図って行きたいと考えている。

【成立連携授業一覧】

No.	日本語教育機関	実施専門学校	実施日	講座メニュー
1	芦屋国際学院	エール学園	1月20日 1月30日	就職ゼミ
2	関西外語専門学校 日本語科	日本メディカル福祉専門学校	1月22日	保育士について知ろう
3	関西外語専門学校 日本語科	修成建設専門学校	2月5日	建築模型製作
4	芦屋国際学院	ホスピタリティツーリズム専門学校大阪	2月10日	テーブルコーディネート体験 外国人がよく訪れる日本の観光地紹介
5	関西外語専門学校 日本語科	修成建設専門学校	2月12日	季節の草花寄せ植え
6	京都国際アカデミー	大阪工業技術専門学校	2月12日	魚型LEDストラップ製作
7	京都国際アカデミー	エール学園	2月18日	就職ゼミ
8		大阪エンタテインメントデザイン専門学校		キャラクターをデザインしてストラップを作ろう
9	神戸国際語言学院	エール学園	2月25日	就職ゼミ
10	シンアイ語学専門学院	大阪総合デザイン専門学校	2月27日	オリジナルデザイン缶バッジ製作
11	神戸国際語言学院	ECCコンピュータ専門学校	3月3日	初めてでも描けるアニメ講座
12	関西外語専門学校 日本語科	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ大阪	3月5日	オリジナルアクセサリ制作
13	関西外語専門学校 日本語科	辻調理師専門学校	3月12日	調理体験・菓子の試食
14	新亜国際語言学院	ECCアーティスト専門学校	3月28日	メイク講座
15		大阪エンタテインメントデザイン専門学校		声優になるための基礎ボイストレーニング
16		大阪工業技術専門学校		お部屋のカラーリング製作
17		関西外語専門学校		就職に役立つビジネスマナー
18		日本コンピュータ専門学校		キャラクターデザイン講座
19		日本メディカル福祉専門学校		人体の構造を知ろう

実施報告書(日本語学校との連携授業)	
専修学校名	日本メディカル福祉専門学校
担当講師名	大木 麻里、美藤 佳代子
日本語教育機関	関西外語専門学校 日本語課程
実施日時	2014年1月22日(水) 12:50 ~ 14:30 (うち10分休憩)
対象者数	20名
講座名	保育士について知ろう
実施概況	<p>【1】 分野・職業理解 (40分) 幼児の成長過程について理解し、そのために必要な幼児教育を理解し、保育士という仕事を理解してもらう。 パワーポイントを使用して、画で見せることにより理解を深めてもらう。</p> <p>【2】 職業体験 (40分) 切り紙、折り紙、なぐり書き、歌遊び等 保育園で実際に幼児に行う遊びを体験し、職業理解を図る</p>
実施結果	<p>■講座実施における成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の幼児教育制度についての正しく理解し、体験授業等を通して保育士という職業を理解できた。 ・自分の乳幼児期のことを振り返り、乳幼児の発達過程の理解を深めた。 ・紙遊びや歌遊びをすることにより、日本の文化も学ぶことができ、さらに楽しく日本語を学ぶことができた。 <p>■その他反省点等</p> <p>実際に体を動かしたり、声をだしたりすることは、なかなか少ないので、受講して頂いた学生には、“楽しかった”等高評価をいただきました。保育士という職業理解だけでなく、日本の文化についても理解を深められたと思います。</p>

実施報告書(日本語学校との連携授業)	
専修学校名	学校法人エール学園
担当講師名	前田 収
日本語教育機関	芦屋国際学院大阪校
実施日時	2014年1月20日(月) 11:30~12:30
対象者数	21名
講座名	就職ゼミ
実施概況	<p>【1】自己紹介 (5分)</p> <p>【2】就職活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般的な就職活動の流れ (40分) ・ 企業検索の問題点 ・ 企業と就職活動生の見解の違い ・ ターゲット企業へのアプローチ ・ 職務経歴書の効果 ・ NGワード ・ 中途採用に向けて ・ まとめと今後 <p>【3】質疑応答・アンケート (15分)</p>
実施結果	<p>■講座実施における成果</p> <p>まだ就職活動についての理解が無い人について啓蒙的な話ができる。 近い将来やるべきこと、今から準備すること、企業に評価される人物などを社長として採用する視点で話をする事ができた。</p> <p>■その他反省点等</p> <p>話すスピードが速く、少し消化不良だったように感じる。</p>

実施報告書(日本語学校との連携授業)

専修学校名	学校法人エール学園	
担当講師名	李 順葉	
日本語教育機関	芦屋国際学院大阪校	
実施日時	2014年1月30日(木)	11:30~12:30
対象者数	18名	
講座名	キャリアデザイン	
実施概況	<p>【1】自己紹介 (5分)</p> <p>【2】キャリアデザイン体験(45分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアデザインとは ・ 今日+今日+今日→未来 (ワークシート:自分を創るシート) ぼんやりを具体的にイメージしよう 未来を創ろう(目標達成リストの記入) ・ 幸せとは より視野を広げた人生を送ろう! 究極の4つの幸せ ・ 認知的焦点化理論 <p>【3】質疑応答・アンケート (10分)</p>	
実施結果	<p>■講座実施における成果</p> <p>メンタリングをベースにしたキャリアデザインで、ワークシートを使った「自分の内面を見つめる」手法を導入し、自分を見つめなおすきっかけを提供できた。</p> <p>「人生の目標が必要です」「自分の人生をもう一度考え直します」などのアンケート結果があるように、真剣に人生を考える姿勢やきっかけを提供できた。</p> <p>■その他反省点等</p> <p>質疑応答の時間をもう少し取れればよかった。</p>	

連携事業実施報告書(学校法人エール学園)

実施報告書(日本語学校との連携授業)

専修学校名	修成建設専門学校	
担当講師名	塩田 久及、増田 和浩	
日本語教育機関	関西外語専門学校 日本語学科	
実施日時	2014/2/5(水)	13:00-14:30
対象者数	20名	
講座名	建築模型製作	
実施概況	<p>【1】 建築の日本語 (30分) 建築の基礎知識や、実習で使う材料・道具を実物を見ながら解説。モノ(名詞・形容詞)を切る・ちぎるなどの行動(動詞)を見せながら、語彙取得を意識して講義を行った。また、イメージと母国語・日本語をリンクさせることで、理解度を深めた。</p> <p>【2】 建築模型制作(50分) 前項で説明した材料・道具を使用して、1/100スケールの住宅模型を作成した。設計実務で使用する特殊な材料を使用し職業を体験することで、日本国内における建築士の業務を理解した。また母国の制度などと比較することで、日本特有のシステム、仕組み、技術の基礎を知った。</p>	
実施結果	■講座実施における成果	
	日本の住宅建築の名称と役割の理解ができた。 よく知っている身近なモノだが、日本語で考え、理解することで、より興味を持って取り組み、日常とは少し違う日本語を体験できたのではないかと感じる。	
	■その他反省点等	
ものを作るスピード、説明に対する理解度がそれぞれ異なるため、全体の進行を均一にすることが難しい。非漢字圏の学生には一部、英語(和製英語を含む)が必要だったので、今後、日本語のみで進行できる方法を探していきたい。		

連携事業実施報告書(修成建設専門学校)

留学生職業人育成セミナーアンケート集計

【調査概要】

- 調査方法：本セミナー終了後、実施
- 調査日：平成25年11月16日（土）
- 調査対象：セミナー参加者35名
- 回収数：14件

本セミナーの感想をお聞かせください。

Q1 第1部①:留学生採用企業 実績紹介「留学生の採用事例、現場で求められる留学生像」

項目	① とても参考になった	② 参考になった	③ 普通	④ あまり参考にならなかった	⑤ 参考にならなかった	無回答	合計
人数	4	6	2	0	0	2	14
割合(%)	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	100.0%

〔ご意見・自由回答〕

- ・遅れての参加のためお話しがうかがえませんでした。
- ・実は、田内社長のお話しを伺うのは3度目です。（①エール学園にて②当校の出張連携授業③今回人材として、日々外国人を厳しい目で見てくださっている立場からのお話しは日本語学校にとって大変有益で、納得される点が多いです。本日はここで失礼いたしましたありがとうございます。
- ・企業が求める人材について具体例をあげて分かりやすく説明頂けたので・・・。
- ・本校で現在在籍している留学生に対し、就職支援に役立てると思いました。
- ・この程度の話はどこでも聞けるのでは？申し訳ありません。
- ・リーダー、キャンサー、エイリアン、パラサイトの例が参考になりました。
良い人材に出会いたいと思います。
- ・進学指導の際、参考にしたい話が多かったです。
- ・どの国の出身者でも人材が大切である事。
- ・調理・製菓の技術や知識の教育だけでなく、人間性の向上を目指した教育の必要性を改めて感じました。
- ・到着が遅れて聞けませんでした。

Q2 第1部②:平成24年度連携授業 実施校実績・成果報告(1 大阪工業技術専門学校 発表)

項目	① とても参考になった	② 参考になった	③ 普通	④ あまり参考にならなかった	⑤ 参考にならなかった	無回答	合計
人数	5	6	1	0	0	2	14
割合(%)	35.7%	42.9%	7.1%	0.0%	0.0%	14.3%	100.0%

〔ご意見・自由回答〕

- ・作る楽しさと難しさを学べる授業とされているのが分かったので良かったです。
- ・出前授業は詳細に聞ければ聞けるほどありがたいです。
- ・建築・インテリアという難しい部分をレベル別に合わせた内容で連携授業を行っている様子が伝わりました。工具なども準備も大変そうですが、事前に用意もして頂けることで良かったです。

- ・具体的な内容を知ることができました。
- ・他分野の出張授業の内容を今後参考にさせていただきたいと思います。
- ・理系に興味のある学生が増えてきていますので、利用したいと思います。

・ Q3 第1部②:平成24年度連携授業 実施校実績・成果報告(2 学校法人山口学園 ECC 留学生センター 発表)

項目	① とても参考に なった	② 参考になった	③ 普通	④ あまり参考に ならなかった	⑤ 参考にならな かった	無回答	合計
人数	4	6	2	0	0	2	14
割合(%)	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	100.0%

〔ご意見・自由回答〕

- ・今の学生が興味ある内容のプログラムが多く、楽しめそうだと思います。
- ・豊富なメニューが具体的にうかがえて参考になりました。
- ・非常に多くのメニューが具体的に説明されており連携授業のイメージが想像できた。留学生の就職実績も含め、留学生の教育にも力を入れている様子が良く分かりました。
- ・具体的な指導法等を知りたいです。
- ・留学生のみなさんに興味を持ってもらう工夫がたくさんありましたので、ぜひ参考にさせていただきます。
- ・大学卒や就労経験のある学生が多いので、帰国後の就職に役立つ技術を学ばせたいと思います。

Q4 4. 第1部③:平成24年度連携授業受入れ実績報告(関西外語専門学校日本語課程 発表)

項目	① とても参考に なった	② 参考になった	③ 普通	④ あまり参考に ならなかった	⑤ 参考にならな かった	無回答	合計
人数	9	4	0	0	0	1	14
割合(%)	64.3%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	100.0%

〔ご意見・自由回答〕

- ・積極的な取り組みを伺って、非常に参考になりました。
- ・日本語の授業との関連づけの方法、進路へのつなげ方など、とても参考になりました。
- ・進路希望の変化など明確な数字でご説明があり、参考になったのと、学生の意識改革は、日本語学校と専門学校の連携が必要であると改めて認識しました。また、授業にフィールドバックされている事に出張体験授業が更に生かされているところが良かったです。
- ・日本語学校の視点から考えるいい機会になりました。
- ・留学生の今後の進路、就職の参考になると思いました。
- ・実際体験授業を実施させていただいたので、授業を通してどのような日本語教育に生かされていたのかがとても良く分かりました。
- ・授業構成として進学需要をほりおこすところから取り組んでいるというところから連携授業をうまく取り入れているというところ。
- ・日本語教育としての取組の実例、単純に授業を体験するだけでなくきちんと自校の目標に落とし込んでいる。非常に緻密に取り組まれている。提供する側としても日本語学校の取組をイメージできてよかったです。
- ・連携授業で学んだ内容を日本語教育に取り組んでいるという取り組みは学生にとっても良い経験になると思いました。
- ・優れた取り組みであると思います。
- ・やってみたくて興味がありました。

- ・どのように活かしていくのかが分かりました。
- ・進学実績などを伺うと連携授業が実績に繋がることが理解できました。必要性を感じました。
- ・当校の担当者にすすめてみたいと思います。大学を卒業した就職希望の学生が増えてきています。

Q5 第2部交流会&連携授業説明会

項目	① とても有意義 だった	② 有意義だった	③ 普通	④ 有意義ではな かった	⑤ 全く有意義で はなかった	無回答	合計
人数	5	1	1	0	0	7	14
割合(%)	35.7%	7.1%	7.1%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%

〔ご意見・自由回答〕

- ・授業についての具体的なお話しがうかがえました。今後のヒントが得られました。
- ・具体的な内容を各校に伺うことができました。
- ・様々な取り組みに今後も参加していきたいと思います。
- ・今回は時間がなく参加できませんでした。
- ・日本語学校の立場として日本で料理やお菓子を勉強する事の必要性を聞いたのでよかったです。
- ・人数が少なかったですが、良い交流の時がもてたと思います。

Q6 その他、ご意見がございましたらご記入下さい。

来年同様の日本語学校対象のセミナーを開催する場合、実施してほしい内容等がございましたら、ご記入ください。

〔ご意見・自由回答〕

- ・専門学校別にブースを設けていただく等、体験授業の内容を具体的に紹介させていただける機会があると大変嬉しいです。

留学生職業人育成セミナー アンケート

Q1 第1部①:留学生採用企業 実績紹介「留学生の採用事例、現場で求められる留学生像」

1. とても参考になった 2. 参考になった 3. 普通 4. あまり参考にならなかった 5. 参考にならなかった

その理由を具体的にお聞かせください。

Q2 第1部②:平成 24 年度連携授業 実施校実績・成果報告（1大阪工業技術専門学校 発表）

1. とても参考になった 2. 参考になった 3. 普通 4. あまり参考にならなかった 5. 参考にならなかった

その理由を具体的にお聞かせください。

Q3 第1部②:平成 24 年度連携授業 実施校実績・成果報告（2学校法人山口学園 ECC 留学生センター 発表）

1. とても参考になった 2. 参考になった 3. 普通 4. あまり参考にならなかった 5. 参考にならなかった

その理由を具体的にお聞かせください。

Q4 第1部③:平成 24 年度連携授業 受入れ校実績報告（関西外語専門学校日本語課程 発表）

1. とても参考になった 2. 参考になった 3. 普通 4. あまり参考にならなかった 5. 参考にならなかった

その理由を具体的にお聞かせください。

Q5 第2部:交流会&連携授業説明会

1. とても有意義だった 2. 有意義だった 3. 普通 4. 有意義ではなかった 5. 全く有意義ではなかった
その理由を具体的にお聞かせください。

Q6 その他、ご意見がございましたらご記入下さい。

来年同様の日本語学校対象のセミナーを開催する場合、実施してほしい内容等がございましたら、ご記入ください。

貴校名: _____

部署名: _____

ご担当者氏名: _____

電話番号/FAX番号: _____ / _____

メールアドレス: _____

ご住所: _____

- 今後大専各で実施する事業のご案内等の送付をさせていただきます。
いても良い場合は口にチェックをつけてください。
アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

連携授業 実施希望校 記入欄

連携授業先として希望する学校名、講座名をご記入ください。

NO.	学校名	講座名

日本語学校と専門学校の連携により
日本で就職し活躍できる外国人留学生を育てる!

平成25年度文部科学省委託事業
「専修学校留学生就職アシスト事業」
関西型専修学校就職支援システム-拠点整備



留学生職業人 育成セミナー

2013年
11月16日(土)
13:00~

会場 大阪工業技術
専門学校(3号館)
OCTモノづくり館

本連合会では、外国人留学生に対して専門的な知識・技術や日本文化・習慣を教育し日本で、また母国で、活躍できる中核的専門人材育成をめざしています。また、行政や企業と連携しながら、日々移り変わる社会ニーズを掴み、反映させた指導を行っています。

- ・第1部:留学生を採用した企業の担当者をお招きして講演会を実施します。専門学校を卒業した留学生が学生時代に身につけた職業教育を活かして日本企業で実践している様子をお伺いします。併せて、採用の立場から、今後採用する留学生に期待することも合わせてお話いただけます。また、昨年度実施した連携授業実施校担当者による昨年度実績、及び成果報告を行います。
- ・第2部:日本語学校と専門学校との交流会で、具体的な連携授業などのご紹介や、それ以外の連携についてもご相談頂けます。

専門学校の授業がやってくる 連携授業のご案内

観光、ファッション、美容、ゲーム、アニメ、調理、建築、土木、機械、電気など、日本語学校のニーズに合わせてさまざまな分野の授業を行います。

本プログラムは、専門学校の授業を「出張」という形で日本語学校での連携授業を実施します。この授業は、留学生が進路を考えるきっかけとなるカリキュラムとして、また短期留学プログラム・学生への体験イベントとしての実施も可能です。専門学校への準備教育をカリキュラムに取り入れたいとお考えの日本語学校にとっても、活用しやすい内容となっています。留学生の多様化する進路希望への対応強化を図り、さらに幅広い留学生層への日本語教育の場としてお役にください。

近畿圏内の
日本語学校で学ぶ
留学生のための
出張授業



お問合せ

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

〒534-0026 大阪市都島区鯉島町6番20号 大阪府私学教育文化会館 担当:勝岡
TEL:06-6352-0048 FAX:06-6352-7553

お申し込み

(事務局代行会社)

株式会社WAVE 大阪市北区西天満4-14-3
住友生命御堂前ビル14階(担当:中島)
TEL:06-6362-1222 FAX:06-6362-1221

詳しくは裏面をご覧ください

留学生職業人育成セミナー実施告知用チラシ
(オモテ面)

まずは留学生職業人育成セミナーへお越しください。

2013年

11月16日(土) 13:00～

会場 大阪工業技術専門学校(3号館)
OCTモノづくり館

地下鉄谷町線天満橋駅1番出口、京阪電気鉄道橋筋13号線徒歩約7分



第1部 留学生職業人育成セミナー 13:00～15:00

① 留学生採用企業 実績紹介

「留学生の採用事例、現場で求められる留学生像」
株式会社CORE 代表取締役 田内 比登志 氏

② 「平成24年度連携授業 実施校実績・成果報告」

- ① 大阪工業技術専門学校 教務課長 宗林 功 氏
- ② 学校法人山口学園 ECC留学生センター

③ 「平成24年度連携授業 受入れ校実績報告」

関西外語専門学校日本語課程 教科副主任 御崎 親子 氏

第2部 交流会&連携授業説明会 15:00～17:00

連携授業を実施する専門学校の担当者との交流の場を設け、各専門学校の授業内容等についてご紹介させていただきます。
※会場への出入りは自由、第2部のみ参加、途中参加・退場も可能です。

留学生職業人育成セミナー 事務局宛て

■ 参加申込書 **申込締切** 11/11(月) 必着 FAX:06-6362-1221

※全項目に必ずご記入ください。

学校名	担当部署
住所	
TEL	
フリガナ	フリガナ
氏名①	氏名②
メールアドレス①	メールアドレス②
<input checked="" type="checkbox"/> 該当するものに <input checked="" type="checkbox"/> を入れてください	連携授業を希望します。 <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 検討中

※ご記入いただきました個人情報に関しては、今後の連携事業のご案内などに活用させていただきます。個人情報に関しては、一般社団法人大阪府専修学校協会が責任を持って管理し、目的以外には使用致しません。また、許可なく第三者に提供することはありません。

大専各連平25第84号
平成25年10月18日

日本語学校
代表者・進路指導ご担当者様

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会
理事長 福田 益和
留学生委員会
委員長 長谷川 恵一
(公印省略)

平成25年度文部科学省委託事業「専修学校留学生就職アシスト事業」
「留学生職業人育成セミナー&交流会（連携授業説明会）」のご案内
～近年増加する就職を希望する留学生指導のために～
日本語学校と専修学校との連携をわかりやすく解説し、進路指導上必要な情報を提供します

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は本連合会の事業につきまして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）は、平成25年度文部科学省委託事業「専修学校留学生就職アシスト事業」を受託し、その事業の一環として「留学生職業人育成セミナー&交流会（連携授業説明会）」を下記の通り開催する運びとなりました。

第1部のセミナーでは、現在の留学生の就職事情を企業様にお話しいただきます。

また、大専各では専修学校の授業を「出前」という形でお届けするプロジェクトを進めています。この出前授業は、留学生が進路を考える際のご提供はもちろん、短期留学プログラム学生への体験イベントとしての実施も可能です。そこで、昨年度実施いたしました出前授業を専修学校から、また出前授業受入校である日本語教育機関から実績報告としてご紹介させていただきます。

第2部では、参加者が自由に懇談できる形態にて交流会を実施いたします。

出前授業のご相談や、今後の連携についてもご要望がございましたら是非ご意見を頂戴したいと考えております。（会場への出入りは自由。第二部のみの参加、途中参加・退場も可能）

業務ご多忙の折とは存じますが、皆様方のご出席を心よりお待ちしております。

敬具

記

開催日 : 平成25年11月16日（土）
場 所 : 大阪工業技術専門学校(3号館) OCT モノづくり館
申 込 : 申込書(事業案内チラシの裏面)にご記入いただき、11月11日(月)までに
FAXにてお申込みください。

<当日配布資料> 平成25年度版 職業人育成ガイド

(大専各会員校の留学生受入れ学校概要や現在日本企業で活躍する元留学生と企業担当者の生の声を掲載しています。留学生の進路指導にお役立ていただける冊子です)

■お問い合わせ 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会事務局 (担当: 勝間)
大阪市都島区網島町6-20 TEL:06-6352-0048

■申込票送付先 株式会社WAVE (担当: 中島)
TEL:06-6362-1222 FAX:06-6362-1221

留学生職業人育成セミナー&交流会案内状 (日本語学校向け)

設置者・代表者様
留学生担当者様

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会
理事長 福田 益和
留学生委員会
委員長 長谷川 恵一
(公印省略)

日本語学校との連携事業（出前授業等の実施）および
マッチングのための交流会の開催について

貴校に於かれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は本連合会の事業につきまして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、大阪府専修学校各種学校連合会では、平成25年度文部科学省委託事業「専修学校留学生就職アシスト事業」を受託し、その事業の一環として日本語学校との連携事業（出前授業等の実施）およびマッチングのための交流会を開催する運びとなりました。日本語学校に専門学校の職業教育を提供することにより、今後の日本語学校との強い連携を図ることを目的としております。

つきましては、日本語学校との連携授業を実施したいと考えておられる専修学校（専門課程）に於かれましては、是非ともこのプログラムにご参加賜りますようお願い申し上げます。参加をご希望される学校様は、「別紙参加申込票」と、専修学校（専門課程）が実施できる出前授業の内容を事前に提示にするため、別紙「専修学校（連携授業内容）」にご記入のうえ、10月18日（金）迄にFAXにてご提出をお願いいたします。尚、多数のお申込みを頂きました場合には、実施会場のスペース等の関係上、定員に達した時点でお断りさせて頂く場合がございます。予めご承知おきください。

また、交流会当日は、第一部に日本語学校向けに留学生採用実績のある企業の講演や、昨年度の出前授業の実績、成果を紹介する留学生職業人育成セミナーがございます。日本語学校との交流をスムーズに進めていただくため、セミナーからのご参加をお願いしておりますので、ご理解いただきますよう、お願い申し上げます。

記

日時：平成25年11月16日（土） 13:00～17:00
12:45までにご来場ください。
第一部：留学生職業人育成セミナー
第二部：日本語学校との交流会

場所：大阪工業技術専門学校（3号館）OCTモノづくり館

（主催）一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会事務局（担当：勝間）
〒534-0026 大阪市都島区網島町6-20 TEL:06-6352-0048

■本件に関する問合せ先・申込票送付先
(参加申込受付代行会社)
株式会社WAVE（担当：中島）
TEL:06-6362-1222 FAX:06-6362-1221
530-0047 大阪市北区西天満4-14-3-14階

留学生職業人育成セミナー&交流会案内状（専修学校向け）

参加申込票

日本語学校との連携事業（出前授業等の実施）および マッチングのための交流会の開催について	
交流会：平成 25 年 11 月 16 日（土）13 時～17 時	
場 所：大阪工業技術専門学校(3 号館) OCT モノづくり館	
学 校 名	TEL
メールアドレス	
参加者名	担当部署
参加者名	担当部署
参加者名	担当部署

《質問事項》
◆このイベントについてのご質問がございましたら下記にご記入願います。

- ※ 本用紙をご記入のうえ、10月18日（金）までにFAXにて送信ください。
- ※ 参加決定は、改めましてメールにてご連絡を致します。
- ※ この申込書によって提供いただく個人情報、交流会の参加確認以外には使用いたしません。
 また、当連合会のプライバシーポリシーに基づく管理体制の下で、厳重に管理いたします。

申込票送付先：申込受付代行 株式会社ウェイヴ （担当 中島）
FAX 06-6362-1221

出前授業の実施が可能である専修学校（専門課程）に於かれましては、実施できる出前授業の内容を日本語学校へ事前に提示にするため、別紙「専修学校（連携授業内容）」についても10月18日（金）迄にFAXにてご提出をお願いいたします。

**平成25年度文部科学省委託事業「専修学校留学生就職アシスト事業」
留学生職業人育成セミナー 参加者リスト**

	学校名	担当部署
【専門学校】		
1	大阪総合デザイン/大阪エンタテイメントデザイン	学生部
2	関西外語専門学校	入学事務室
3	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ大阪	入学相談室
4	大阪工業技術専門学校	事務課
5	大阪工業技術専門学校	事務課
6	大阪工業技術専門学校	
7	大阪工業技術専門学校	教務課長
8	辻調理師専門学校	入学広報部
9	大阪コミュニケーションアート専門学校、大阪スクールオブミュージック専門学校、大阪ダンス&アクターズ専門学校、大阪アニメーション専門学校	滋慶国際交流.COM
10	学校法人瓶井学園 日本理工情報専門学校 日本コンピュータ専門学校 日本メディカル福祉専門学校	
11	修成建設専門学校	事務局・留学生担当
12	関西社会福祉専門学校	事務局
		参加人数 小計12
	学校名	担当部署
【日本語学校】		
1	日本理工情報専門学校(日本語学科)※連携授業検討中	教務
2	アジアハウス附属海風日本語学舎	教務
3	大阪YWCA専門学校 ※連携授業希望	日本語学科
4	大阪YWCA専門学校 ※連携授業希望	日本語学科
5	関西外語専門学校 ※連携授業希望	日本語課程教科副主任
6	芦屋国際学院 大阪校 ※連携授業検討中	教務課
7	学校法人 大阪YMCA	理事、事業統括
		参加人数 小計7
	学校名	氏名(敬省略)
【留学生委員会】		
1	学校法人 山口学園	木村 泰一
2	学校法人 エール学園	崎村 真
3	大阪工業技術専門学校	浜野 哲二
4	清風情報工科学院	平岡 憲人
5	学校法人 エール学園	長谷川 恵一
6	学校法人 瓶井学園	瓶井 修
7	学校法人 瓶井学園	瓶井 剛
8	学校法人 上田学園	上田 哲也
9	関西外語専門学校	富永 桂多
10	清風情報工科学院	古畑 和彦
		参加人数 小計10
	学校名	担当部署
【その他(発表者)】		
1	株式会社CORE	代表取締役
		参加人数 小計1
その他発表者3校3名、事務局2名		
		参加人数 合計35

留学生職業人育成セミナー&交流会参加者リスト

大專各連平25第101号
平成25年12月5日

日本語学校
代表者・進路指導ご担当者様

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会
理事長 福田 益和
留学生委員会
委員長 長谷川 恵一
(公印省略)

平成25年度文部科学省委託事業「専修学校留学生就職アシスト事業」
「連携授業メニュー」のご案内
～近畿圏内の日本語学校で学ぶ留学生のための出張授業～

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は本連合会の事業につきまして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）は、平成25年度文部科学省委託事業「専修学校留学生就職アシスト事業」を受託し、その事業の一環として日本語学校の学生へ向けた出張授業を実施いたします。

この出前授業は、留学生が進路を考える際のご提供はもちろん、短期留学プログラム学生への体験イベントとしての実施も可能です。

留学生の多様化する進路希望への対応強化を図り、より幅広い留学生層への日本語教育の場としてお役立てください。

敬具

記

【お申込みについて】

連携授業をご希望の日本語学校様は、当連合会事務局（下記参照）までご連絡ください。

■お問い合わせ 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会 事務局（担当：勝間）
大阪市都島区網島町6-20 TEL:06-6352-0048

専門学校の授業が
やってくる

連携授業メニュー

近畿圏内の日本語学校で学ぶ留学生のための出張授業



一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会



近畿圏内の
日本語学校で学ぶ
留学生のための
出張授業

連携授業のご案内

観光、ファッション、デザイン、インテリア、美容、ITゲーム、Web、アニメ、調理、建築、土木、機械、電気、医療・保育など、日本語学校のニーズに合わせてさまざまな分野の授業を行います。

本プログラムは、専門学校の授業を「出張」という形で基本、日本語学校内で実施します。連携授業は、留学生が進路を考えるきっかけとなるカリキュラムとして、また短期留学プログラム学生への体験イベントとしての実施も可能です。さらに専門学校への準備教育をカリキュラムに取り入れたいとお考えの日本語学校にとっても、活用しやすい内容となっています。留学生の多様化する進路希望への対応強化を図り、より幅広い留学生層への日本語教育の場としてお役立てください。

	学校名	分野	講座名 / 内容	日本語 能力	時間	回数	対象 人数
1	ECCアーティスト 専門学校	ネイル	ネイリスト講座 ネイリストが、様々なネイルのテクニックを伝授します。例えば、爪のまわりをきれいにするケアカラーや、ストーンアートとよばれるおしゃれネイルなどご要望に応じた授業を提供します。	初級 中級 上級 問わず	60分	1回	1名 と 15名
2	ECCアーティスト 専門学校	メイク	メイク講座 日本で流行のメイクや、今年のトレンドを取り入れたメイク(キュート、エレガント、クール)などご要望に応じて様々な授業を提供いたします。あなたの魅力を引き出すテクニックをマスターすることができます。	初級 中級 上級 問わず	60分	1回	1名 と 10名
3	ECC国際外語専門学校	語学	BJTビジネス日本語能力テスト対策 BJTビジネス日本語能力テストは、日本語によるビジネスコミュニケーション能力を測るテストです。この講座では、日本で就職を目指す方、日本企業で働きたい方向けに、ビジネス日本語学習の入門編として実施いたします。	初級 中級後半 上級 問わず	60分	1回	1名 と 20名
4	ECC国際外語専門学校	語学	英会話でフリートーク 日本語を学習している留学生に実は、人気のある科目が英語です。今回は、ECC国際外語の英会話授業を提供いたします。英語が苦手でも大丈夫です。個性豊かな面白い英語のネイティブ講師と楽しくコミュニケーションしてください。	初級 中級 上級 問わず	45分	1回	1名 と 7名
5	ECCコンピュータ 専門学校	アニメ	初めてでも描けるアニメ講座 紙と鉛筆だけあれば、誰でも能力的なキャラクターを描くことができます。絵を書くのが苦手でも問題ありません。顔のパーツ(目・鼻・口など)の描き方や影のつけ方、立体的に描く方法などその日のうちに使える簡単な技術を伝授します。	初級 中級 上級 問わず	60分	1回	1名 と 20名
6	学校法人エール学園	経営	就職ゼミ 留学生を採用している社長が直接留学生にアドバイスします！ 昨年度、就職率100%を実現した就職直轄コースより、ご社社長のアドバイスをグループに分かれて指導します。「何を準備しておけばいいか」等「経営者の視点」からお話をしてくれます。希望者には別の日に面接練習もしてもらえます。	初級 中級 上級 問わず	50分	1回	1名 と 10名
7	大阪エンタテインメント デザイン専門学校	声優	声優になるための基礎ボイストレーニング 声優になるための基礎訓練やアニメ画像に声を入れるアナレコを体験します。	初級 中級 上級 問わず	30分 と 60分	1回 と 5回	1名 と 15名
8	大阪エンタテインメント デザイン専門学校	アニメ マンガ	キャラクターをデザインしてストラップを作ろう アニメーターやマンガ家のプロになるための基礎となるキャラクターデザインを学び、オリジナルストラップを作る。	初級 中級 上級 問わず	30分 と 60分	1回 と 5回	1名 と 30名
9	大阪工業技術専門学校	機械・ 電気	魚型LEDライトストラップ製作 醤油刷りの部品を利用(再生)する事で、手作りのLEDライトストラップを製作します。これは、『ものづくり』の楽しさを身近に感じてもらうファーストステップの内容であり、日本語学校様の要望に応じて次のステップへと進めることが可能です。	初級 中級 上級 問わず	50分	1回	1名 と 10名

	学校名	分野	講座名/内容	日本語 能力	時間	回数	対象 人数
10	大阪工業技術専門学校	建築	建築図面から建築模型をつくる 建築模型講座(モノづくり編)は模型を実際につくることにより「モノづくり」の基本と姿勢を学習を通して学びます。お家の図面をスチレンボードに貼り付け、カッターで切り抜き、その部材をボンドで組み合わせれば完成です。簡単なお家の模型を作成します。	初級 中級 上級 問わず	50分	1回	1名 ? 10名
11	大阪工業技術専門学校	インテリア	お部屋のカラーリング製作 インテリアデザイン講座(モノづくり編)はお部屋のインテリアやカラーリングを考えることにより「モノづくり」の基本と姿勢等、学習を通して学びます。お部屋やバスルーム等の台紙に色を塗り、自分の好きな空間を完成します。	初級 中級 上級 問わず	50分	1回	1名 ? 10名
12	大阪総合デザイン専門学校	マンガ 絵画	オリジナルデザイン缶バッジ製作 プロダクトデザインやコミックアートデザイナーになるためのデザイン基礎を学び、オリジナル缶バッジを仕上げる。	初級 中級 上級 問わず	30分 ? 60分	1回 ? 5回	1名 ? 30名
13	大阪ブライダル専門学校	ブライダル	ウェディングプランナー体験 ブライダル業界について最新の情報や全体的な概要を提供した後、ブライダルにおける職種の詳しい紹介をいたします。そして後半はウェディングプランナーとしての接客を体験していただきます。	初級 中級 上級 問わず	50分	1回	1名 ? 10名
14	関西外語専門学校	ビジネス マナー	就職に役立つビジネスマナー 挨拶、お辞儀、名刺交換の仕方、入室マナーなど基礎からビジネスマナーを学びます。	初級 中級 上級 問わず	50分 ? 90分	1回	1名 ? 15名
15	修成建設専門学校	建築	建築模型製作 建築設計の現場で使用されている材料を用いてプレゼンテーション用の模型を制作します。学校様の要望に応じて、数種類の中から選んでいただけます。	初級 中級 上級 問わず	90分	1回	1名 ? 25名
16	修成建設専門学校	園芸	季節の草花寄せ植え 季節に合わせて、様々な草花を使い寄せ植えを完成させます。実際の植物にふれて、造園、ガーデニングの基礎を学んでいただけます。	初級 中級 上級 問わず	90分	1回	1名 ? 25名
17	辻調理師専門学校	調理・ 製菓	調理・製菓のデモンストレーション 本校の職員が調理もしくは製菓のデモンストレーションを実施します。日本語学校様にある設備を確認し、内容を決めさせていただきます。本校内での実施も可能です。	初級 中級 上級 問わず	50分	1回	10名 ? 20名
18	日本コンピュータ専門学校	アニメ	キャラクターデザイン講座 アニメやマンガのキャラクターの描き方や、オリジナルキャラクターのデザイン技法を学びます。誰でもうまくキャラクターが描ける技法を一緒に学びましょう。	初級 中級 上級 問わず	45分	1回	1名 ? 5名
19	日本コンピュータ専門学校	Web デザイン	Webデザイン講座 パソコンが使用でき、ソフトの準備が可能であれば、Web上で表示されるホームページなどのデザインの作り方を学びます。ソフトの準備が困難であれば、デザイン技法、配色を学べる講座を行います。	初級 中級 上級 問わず	45分	1回	1名 ? 5名
20	日本コンピュータ専門学校	IT ゲーム	ゲーム制作体験 パソコンが使用でき、ソフトの準備が可能であれば、簡単なゲームの制作を体験できます。	初級 中級 上級 問わず	60分	1回	1名 ? 5名
21	日本コンピュータ専門学校	声優	声優の基本 発声を学ぼう 声優になるための基本である「発声」、「滑舌」の方法を学びます。声を大きく出したり、伸ばしたり、声に感情を入れる方法などを体験しながら学びましょう。	初級 中級 上級 問わず	45分	1回	1名 ? 5名

	学校名	分野	講座名/内容	日本語能力	時間	回数	対象人数
22	日本メディカル福祉専門学校	医療	人体の構造を知ろう 人体の構造及び機能(心臓、腎臓)の説明および生体機能代行装置の学習をします。人体模型を使用し、人体のしくみも学習します。	初級 中級 上級 問わず	50分	1回	1名 と 10名
23	日本メディカル福祉専門学校	保育	こどもの抱き方、おしめ交換 保育士の基本であるこどもの抱き方とおしめ交換方法、また簡単な手あそびを学びます。出身国によっての保育方法の違いなど、コミュニケーションをとりながら楽しく体験します。	初級 中級 上級 問わず	50分	1回	1名 と 4名
24	日本理工情報専門学校	自動車	エンジンの仕組みを知ろう 自動車のエネルギー源であるガソリンエンジンの仕組みを学びます。また、自動車にとって電気は大切なものなので、確実に学び、実際に高電圧火花の仕組みを学び、体験してみましょう。	初級 中級 上級 問わず	45分	1回	1名 と 6名
25	日本理工情報専門学校	ロボット	二足歩行ロボットを操作してみよう ロボットの動作をプログラムにし、実際の動きを体験します。プログラムの組み方によってロボットの動きの変化を学びましょう。	初級 中級 上級 問わず	45分	1回	1名 と 5名
26	日本理工情報専門学校	電気	電気工事配線実習 電気のON、OFFの仕組みから、ケーブル(電線)の接続、器具の取り付けを行い、電気照明の点滅を体験学習します。また、日常で使っている家電製品の取扱ひ方を学びます。	初級 中級 上級 問わず	45分	1回	1名 と 5名
27	日本理工情報専門学校	電子	LEDを点灯させてみよう ICを使った出力、電子回路(ケーブル(電線)の接続)で、LED電球を点灯させてみましょう。明るさの調整、色の組み合わせも実習し学習します。	初級 中級 上級 問わず	45分	1回	1名 と 5名
28	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ大阪	デザイン 芸術	オリジナルアクセサリ制作 シルバーやレーザーを使って、オリジナルのアクセサリを制作。モノづくりの楽しさが体験できる内容です。 参加人数・時間によって制作アイテムは相談できます。	初級 中級 上級 問わず	相談可	1回	1名 と 15名 前後
29	ホスピタリティツーリズム専門学校大阪	観光	テーブルコーディネート体験 ホテル業界について最新の情報や全体的な概要を提供した後、ホテルにおける職種の詳しい紹介をいたします。そして後半はカラーナプキンを使用したテーブルコーディネートの基礎を体験していただけます。	初級 中級 上級 問わず	50分	1回	1名 と 10名
30	ホスピタリティツーリズム専門学校大阪	観光	外国人がよく訪れる日本の観光地紹介 現在アジアを中心に全世界から観光客が日本を訪れています。特に関西には京都を中心とした有名観光スポットがたくさんあります。そういった観光スポットはもちろん、「穴場」といわれている名所も紹介いたします。	初級 中級 上級 問わず	50分	1回	1名 と 10名

※日本語能力とは、日本語能力試験：初級レベル(N4～N3程度)・中級レベル(N2前後)・上級レベル(N1前後)

連携授業受講をご希望の教育機関は、下記までお問い合わせください。

お問合せ・
お申込み

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

〒534-0026 大阪市都島区綱島町6番20号 大阪府私学教育文化会館 担当：勝岡
TEL:06-6352-0048 FAX:06-6352-7553

4. 留学生採用意欲を持つ中小企業と専修学校との連携事業

4-A. 留学生採用企業交流会の実施

1. 目的・ねらい等

留学生を採用する企業側としては、外国人雇用についての基本的な知識と問題解決のための指針が示されることが重要であるが、特筆すべき点は、留学生を送り出す側であり、かつ、ノウハウを蓄積した学校が企画し、受け入れ側である企業と、その管理監督を施行する行政の有機的な連携も含めて実施することにあつた。

2. 関連して行った事業名

「1-A. 職業人育成ガイドの発行」

3. 実施結果

(1)実施内容

10名前後のグループに分かれてのディスカッション。グループ内には企業、教育機関、行政が混在するよう配慮した。

(2)実施プログラム

「留学生採用企業交流会」

- 1) 開催日平成25年11月26日(火) 16:30~17:30
- 2) 会場：大阪YMCA会館 10階 101
- 3) 参加人数：62名(内訳：企業29名、学校6名、行政13名、留学生委員会等14名)
- 4) 当日のプログラム

グループディスカッション

(企業参加者)

- ・企業における留学生採用の基準、優秀な留学生を採用するために重視されている点
- ・留学生採用時の課題

(教育機関参加者)

- ・留学生数
- ・留学生の就職・進学状況
- ・留学生に関する取り組みや課題

自由懇談

閉会の挨拶

大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会

大阪YMCA国際専門学校 佐藤裕幸

5) 当日配布資料

当日のプログラム、職業人育成ガイド

4. 当初目的の達成状況

参加人数の内訳は、企業から 29 名、学校（大学、短期大学、専門学校）から 6 名、行政機関から 13 名。というように、今年度は行政からの参加人数の多さが際立つ。厚生労働省のみならず、経済産業省からの複数名参加もあり、各関係機関の関心の深さを感じることができた。

5. 成果

企業間での情報交換。学校間での情報交換。各々の立場を踏まえた上で、受け入れる側の企業と、送り出す側の学校との情報交換ができたことで、今後の発展の足掛かりができたのではないかと。また、各々の相手先の開拓もできたようであった。

6. 成果物

大阪商工会議所の支援を受け、62 名の参加者。

7. 次年度以降における課題・展開

次年度においても継続していくが、「啓発」から「採用（定着）」への転換期に来ていると考える。また、時間的な部分では再考すべきであるところは反省点として課題を残した。当初は、企業関係者に時間的余裕がないのでは？というところで計画していたが、結果的にはその企業から時間の足りなさを指摘されることになった。

4-A：「留学生採用企業交流会」アンケート集計

【調査概要】

○調査方法：本交流会終了後、実施

○調査日時：平成25年11月26日（火）16：30～17：30

○調査場所：大阪YMCA会館 10階101

○調査対象：交流会参加者

○交流会参加人数：62名（関係者14名含む）

○回収数：43件（専門学校4件、大学等4件、行政・団体2件、企業33件）

※平成25年度「大阪府国際化戦略アクションプログラム 外国人材活用システム構築（留学生受入支援）事業」

15：00-16：30と平成25年度文部科学省委託事業「留学生採用企業交流会」16：30-17：30は同日開催のため、共通の用紙で同時にアンケート調査を実施しています。

Q1.1) 十分な情報交換ができましたか。_____

[専門学校]

項目	① とても有意義 だった	② 有意義だった	③ どちらでもない	④ あまり有意義 ではなかった	⑤ 有意義では なかった	無回答	合計
人数	3	0	0	0	0	1	4
割合(%)	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%

[大学等]

項目	① とても有意義 だった	② 有意義だった	③ どちらでもない	④ あまり有意義 ではなかった	⑤ 有意義では なかった	無回答	合計
人数	1	1	0	0	0	2	4
割合(%)	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%

[行政・団体]

項目	① とても有意義 だった	② 有意義だった	③ どちらでもない	④ あまり有意義 ではなかった	⑤ 有意義では なかった	無回答	合計
人数	0	0	0	0	0	2	2
割合(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%

[企業]

項目	① とても有意義 だった	② 有意義だった	③ どちらでもない	④ あまり有意義 ではなかった	⑤ 有意義では なかった	無回答	合計
人数	5	3	2	0	0	23	33
割合(%)	15.2%	9.1%	6.1%	0.0%	0.0%	69.7%	100.0%

Q1.2) 今後、同じようなイベントがあれば参加したいと思いますか。

[専門学校]

項目	① はい	② いいえ	③ 検討する	無回答	合計
人数	3	0	0	1	4
割合(%)	75.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%

[大学等]

項目	① はい	② いいえ	③ 検討する	無回答	合計
人数	1	1	0	2	4
割合(%)	25.0%	25.0%	0.0%	50.0%	100.0%

[行政・団体]

項目	① はい	② いいえ	③ 検討する	無回答	合計
人数	0	0	0	2	2
割合(%)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%

[企業]

項目	① はい	② いいえ	③ 検討する	無回答	合計
人数	5	3	2	23	33
割合(%)	15.2%	9.1%	6.1%	69.7%	100.0%

Q2 交流会に関するご意見・ご要望がございましたら、ご記入ください。

[専門学校]

- ・活発な意見交流ができました。
- ・各テーブルで企業がバランス良く座れたらもっと良いと思います。(どのテーブルも)
- ・特に色々な話が聞けるディスカッションは良い、もっと時間があっても良いと思います。

[大学等]

- ・もっと時間を長めに設けて頂ければと思います。

[企業]

- ・これから学んでいきたいと思います。宜しくお願い致します。
- ・時間不足であったのが、大変残念でした。
- ・時間がおしていました。

アンケート

本研修会にご参加いただき、誠にありがとうございます。
今後の研修会の参考にさせていただきますので、ご感想をお聞かせください。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

1. お名前、会社名等をご記入ください。

貴社(校)名 _____ 担当部署： _____

お名前 _____

TEL： _____ E-mail： _____

2. 本研修会は、留学生の採用検討や受入手続きにおいて有意義だと思われましたか。(いずれか1つを選択)

①とても有意義だった ②有意義だった ③どちらでもない ④あまり有意義ではなかった ⑤有意義ではなかった

3. 各プログラムについてご感想、ご意見をお聞かせください。(いずれか1つを選択)

1) 講演1 「留学生採用の手続き・留意点」

①とても役立つ内容だった ②役立つ部分もあった ③どちらでもない ④あまり役立たない ⑤役立たない

2) 講演2 「わが社の外国人留学生の採用と育成の取組(こ)について」

①とても役立つ内容だった ②役立つ部分もあった ③どちらでもない ④あまり役立たない ⑤役立たない

3) 講演3 「外国人留学生を対象としたインターンシップの取組事例」

①とても役立つ内容だった ②役立つ部分もあった ③どちらでもない ④あまり役立たない ⑤役立たない

各プログラムに関するご意見・ご感想を具体的にご記入ください。

4. 本研修会の開催時期、実施時間について、ご意見ご感想をお聞かせください。(いずれか1つを選択)

1) 開催時期について

①ちょうど良い ②もっと早くしてほしい(具体的に：__月頃) ③もっと遅くしてほしい(具体的に：__月頃)

2) 実施時間について

①ちょうど良い ②長すぎる(具体的に：__時間位ならよい) ③短すぎる(具体的に：__時間位ならよい)

5. 本研修会に関するご感想、ご希望、今後研修会で実施してほしいテーマ等どのような内容でも結構ですのでご記入ください。

具体的にご記入ください。

裏面へ続く→

6. 企業様へ伺います。(6～9について)貴社は留学生を採用されていますか？(いずれか1つを選択)

①はい ②いいえ

7. この先1年のうちに留学生の採用予定はありますか。(いずれか1つを選択)

①はい (_____名程度) ②未定・検討中 ③その予定はない

8. 7. で①はい とお答えの方へお聞きします。

留学生の採用を予定する職種をお聞かせください。

技術者 事務 販売・営業 国際業務 接客 サービス 生産設備の制御 製品製造
輸送・機械運転 建設 運輸 その他(具体的に: _____)

9. 貴社の従業員数は現在何名ですか？

外国人 _____名 / 日本人 _____名 (正規雇用者)

10. 貴社の業種をお聞かせください。

農業 林業 漁業 鉱業 建設業 製造業 電気・ガス・熱供給・水道業
情報通信業 運輸業 卸売・小売業 金融・保険業 不動産業 飲食店、宿泊業
医療、福祉 教育、学習支援業 サービス業 公務

大阪府国際化戦略実行委員会事務局 (大阪府・公益財団法人 大阪府国際交流財団)

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございます。

※このアンケートによって提供いただいた個人情報に関して、当委員会の国際化事業及び情報提供以外の目的では使用いたしません。

平成25年度 文部科学省委託事業 専修学校就職アシスト事業 留学生採用企業交流会

アンケート

1. 下記は交流会に参加された方へ伺います。

1) 十分な情報交換ができましたか。

①とても有意義だった ②有意義だった ③どちらでもない ④あまり有意義ではなかった ⑤有意義ではなかった

2) 今後、同じようなイベントがあれば参加したいと思いますか。

①はい ②いいえ ③検討する

2. 交流会に関するご意見・ご要望がございましたら、ご記入ください。

一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会 (大専各)

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございます。

※このアンケートによって提供いただいた個人情報に関して、当連合会の国際化事業及び情報提供以外の目的では使用いたしません。

%1%

代表者・人事ご担当者様



平成 25 年度 大阪府国際化戦略
アクションプログラム事業

優秀な外国人留学生を採用・活用しよう！ 企業向け外国人留学生採用担当者研修会

外国人留学生の採用について分かりやすく解説する研修会を開催します。外国人留学生の採用検討から実際の手続きや実際に留学生を採用している企業の事例発表等、初めて外国人を採用する企業様にも分かりやすく解説します。

日時

平成 25 年 11 月 26 日 (火) 15:00~16:30

無料

会場

大阪YMCA会館 10階 103・104
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

対象・定員

府内留学生受入企業の担当者
50名(先着順)

講演1「外国人留学生採用の手続き・留意点」

講師：大阪入国管理局就労・永住審査部門
統括審査官 辻本 博信氏

講演3「外国人留学生を対象とした
インターンシップの取組事例」

講師：一般財団法人 大阪労働協会
ジョブカフェ事業担当 リーダー 佐々木 順一氏

講演2「わが社の外国人留学生の採用と
育成の取組について」

講師：株式会社 新高製作所
代表取締役会長 吉谷 忠之氏

主催：大阪府国際化戦略実行委員会
(大阪府・公益財団法人 大阪府国際交流財団)
運営事務局：一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会
協力：大阪商工会議所

平成 25 年度 文部科学省委託事業 専修学校留学生就職アシスト事業

留学生採用企業交流会

大阪府内の教育機関における留学生担当者、および近畿経済産業局、大阪府、大阪市の留学生事業担当者との交流会を予定しております。

日時

平成 25 年 11 月 26 日 (火) 16:30~17:30

無料

会場

大阪YMCA会館 10階 101
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

対象・定員

留学生受入企業の担当者
50名(先着順)

共催

一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会
大阪商工会議所

【申込方法】 下記申込書に必要事項をご記入の上、FAXでお申し込みください。(申込締切日：11月19日)

【お問合せ】 大阪商工会議所 人材開発部 人材採用支援担当(鯉谷) TEL (06) 6944-6495

FAX (06) 6944-5188

参加される項目に○をご記入ください。			
	企業留学生採用担当者研修会に参加		留学生採用企業交流会に参加
貴社名	%1%	ID番号	%7%
参加者氏名		部署・役職名	
所在地	〒		
TEL		FAX	%8%

※ご記入いただいた情報は、大阪商工会議所からの各種連絡・情報提供のために利用するとともに、講師に参加者名簿として提供します。

留学生採用企業交流会案内状

5. 専修学校の日本人学生の国際化事業

5-A. 海外研修実態調査

1. 目的・ねらい等

専修学校の国際化のもう一つの柱である日本人学生の海外送り出しによる日本企業の国際化の要請にこたえるための事業を推進する。今年度は府内の専修学校の海外研修の実態調査を実施する。調査は府内の専修学校のアンケート調査と海外研修実施校のヒヤリングによる調査を実施する。

2. 実施結果

1) 当初の目的通り大阪府内の専修学校へアンケート形式で調査を行った。内 111 校と多くの回答をいただく。結果として府内の専修学校の日本人学生の海外研修の実態について把握することができた。詳細は調査報告書に譲るが、調査結果としての概要を以下述べる。

○111 校中に海外研修実施校は、45 校。40.5%の専修学校がなんらかの形式での海外研修を実施している。

○研修実施国・地域 は北アメリカ 1 位 39.3%、ヨーロッパ 1 位 39.3%と同数。アジア 3 位 14.8%、南アメリカ 4 位 1.6%となっている。また都市では 1 位：アメリカ（ロサンゼルス）27.6%、1 位：イギリス（ロンドン）27.6%、3 位：フランス（パリ）24.1%、4 位：中国（上海）10.3%、4 位：グアム 10.3%となっている。

○実施時期は、11 月 19.7%、12 月は、13.1%。カリキュラム外で実施している学校は、冬季休暇を利用した 12 月実施に集中。

○宿泊日数は 5 泊 23.0%、長期 5 件 8.2%。長期は、留学や海外インターンシップ制度等の実施校である。長期の期間：4 ヶ月 1 件、6 ヶ月 2 件、10 ヶ月 2 件

○研修ジャンルは海外体験は 38.9%、技術習熟は 34.7%、語学研修 6.3%、海外調査 4.2%、海外イベント参加 3.2%、海外インターンシップは 2 件 2.1%、海外での就職活動 1.1% となっている。

○分野別での実習目的は以下のようにになっている。

- 「工業」は、海外体験 38.5%、技術習熟 23.1%
- 「服飾・家政」は、海外体験 57.1%、海外調査 42.9%
- 「商業」は、技術習熟、語学、海外体験とも 33.3%
- 「医療」は、技術習熟 42.3%、海外体験 34.6%
- 「衛生」は、技術習熟 58.3%、海外体験 41.7%
- 「文化・教養」は、海外体験 44.1%、文化・教養 32.4%

2) 大学については、専修学校との比較資料としてアンケートを個別にお願いし、回答をいただいた。回答をいただいたのは、追手門学院大学、大阪成蹊大学、大阪国際大学・大阪国際大学・短期大学部 である。大学ならではの海外研修や調査が予想されたが、海外ボランティア体験などは別にして、専修学校が取り組んでいる海外体験が中心であった。

3) 専修学校の回答校の中で、1校のヒヤリング調査を行った。上田安子服飾専門学校は、イギリス、フランス、アメリカへの海外研修に取り組んでおられ、ヒヤリング実施の翌週が海外研修出立の忙しい中をお邪魔した。詳細はヒヤリング報告を是非お読みいただきたいが、服飾分野の人材育成で、学生の視野を世界に広げること、国際的な感覚を学生に持たせ、世界の舞台で活躍する人材育成をするという意気込みが感じられた。

4) 総括として、専修学校においては積極的に海外研修に取り組んでいること。実習の目的は、まずは海外体験が中心であるが、専修学校ならではの技術習得が分野ごとに実施されている。という調査結果であった。

3. 当初目的の達成状況

当初の目的通りの達成状況である。

4. 成果

府内専修学校の海外研修の実態調査が完了した。

5. 成果物

「大阪府内の高等教育機関における日本人の海外研修実態調査」(巻末に掲載)

6. 次年度以降における課題・展開

専修学校学生の国際化は、グローバル教育として取り組みがされている。今回はその一つとしての海外研修の実態調査を実施した。調査としては、これらの調査があまりなされておらず、実態の理解に意義があったが、近年語られる「内向きな日本人学生」という課題には迫ることができなかった。むしろ多様な海外研修機会の提供を専修学校が取り組んでいる姿が浮かび上がった結果となった。次年度は、「留学生就職アシスト事業」の一環での取り組みとしては、むしろ多くの専修学校が「留学生の受け入れによる教育の国際化、クラスでの異文化交流の推進、日本人学生の視野を広げる」など留学生受け入れによってもたらされるグローバル教育の深化という点の考察に移ることがより意味があると考えられる。

第3章：「関西型専修学校留学生就職支援システム・拠点整備事業」のまとめ

(1) 委託事業の成果

本事業は、事業目的の欄に記載されているとおり、地域中小企業の海外進出に伴うブリッジ人材の確保を、専修学校の留学生受入れと日本就職を通して社会システムとして定着させることにあった。具体的目的は、①多国籍な人材確保のための国内、海外とのネットワーク作りと情報発信、②中小企業のニーズにマッチした人材育成を専修学校へ取り入れるの2点に絞られる。全体の成果としては、これまで取り組んだワンストップサービスのネットワークとスキームの確立で取り組んだ成果を生かして、上記の2点の目的に向けての事業を実施・達成できた。個別事業においては、今年度の反省事項として、取り組む事業が他項目にわたり、集客等で十分な成果がでなかったことである。

各事業の成果については下記の表でまとめる。

事業名	期待する成果	目標	評価指標	実績
1-A 職業人育成ガイドの発行	国内外留学生送り出し機関への理解促進	府内専修学校のガイドとして発行と配布	成果の普及として配布件数500機関	総ページ数116ページ (昨年度110ページ) 留学生受け入れ校82校 (昨年度比105.1%)
1-B WEB上での多言語サイトの構築	海外への情報発信と多国籍留学生確保のためのプロモーション	サイトの完成	運営者の自己評価	職業人育成ガイドの多言語サイト制作 (英語・中国語・ベトナム語) 留学生向け総合支援サイトの構築
2-A 海外拠点整備検討委員会の実施	海外拠点整備のための施策立案、方策提言	海外視察1回。方策提言のとりまとめ	運営者の自己評価	海外視察1回/方策提言のとりまとめ
2-B 現地職業教育連携のモデル事業の実施	海外送り出し機関への日本の専修学校における職業教育の理解促進と留学生送り出しの促進	海外目標拠点での授業実施。参加専門学校の目標2校、現地学校の各授業40人	参加学生、参加機関の満足度 アンケート調査	講座実施校 参加人数 合計49名 <内訳> ①日本の伝統建築と近代建築・住宅模型作製講座 【参加人数 30名/実施校 修成建設専門学校】 ②ロボット・制御講座 【参加人数 19名/実施校 日本理工情報専門学校】
3-A 日本型デュアルシステムの活用を含めたインターンシップを取り入れた留学生のための職業教育モデルの構築	企業ニーズを踏まえた人材育成のノウハウ開発と専修学校へのノウハウ提供	モデル開発専門学校3校以上	開発担当校数及びモデル開発成果の実施委員会での評価	留学生受入状況で留学生を受け入れている専修学校66校中留学生へのインターンシップ実施校41校。 すでに活発なインターンシップの取り組みがされている状況であることがわかり、専修学校の職業教育の質の高さを再確認することができた。
3-B 留学生職業人育成セミナー及び日本語学校との連携事業	留学生送り出し機関＝日本語学校への職業教育の理解促進	セミナー参加70名以上	参加者の満足度調査	参加人数35名 <内訳> ・日本語学校6校7名・専門学校9校12名 ・ケーススタディ 発表者3校3名、1社1名・留学生委員会等12名
	留学生送り出し機関＝日本語学校への職業教育の理解促進	参加専修学校10校以上、参加日本語学校10校以上	参加日本語学校の満足度調査	日本語学校6校から専門学校13校に対して連携授業講座の申込みがあった。連携授業3月28日までの実施完了については19講座となった。
4-A 留学生採用企業交流会の実施	企業ニーズの反映と専修学校における留学生育成事業の周知および理解促進	参加企業40社	参加企業数及び満足度調査	参加人数62名 <内訳> ・企業29名 ・学校6名 ・行政13名 ・留学生委員会等14名
5-A 海外研修実態調査	日本人学生の海外送り出し促進のための基礎調査の完成。ニーズの反映	府内専修学校へのアンケート調査。ヒヤリング実施1学校以上。	実態の把握状況の自己評価	・専修学校アンケート調査実施 →111校中海外研修実施校45校。 ・大学アンケート調査実施 ・上田安子服飾専門学校へのヒヤリング調査の実施

(2) 次年度以降における課題

平成 21 年度から 5 年間で大専各において実施した事業を通じて、受け入れから送り出しまでのワンストップサービスのスキームの確立またそのサービスを実現するための産官学のネットワーク形成に取り組んできた。今年度は先の 4 年間の基盤の活用に焦点を置き、WEB を活用した多言語の情報発信、ベトナムの留学生送り出し状況の調査、ベトナムの教育機関との職業教育連携、日本語学校との連携強化、企業との連携強化の事業を推進し、専修学校の留学生就職を関西の地域に定着させるべく全体を牽引してきた。

次年度以降の課題としては、上記の成果を踏まえ、これまでの網羅的な事業展開から、重点的、集中的な取り組みに転換していくことが求められている。例えば、地域中小企業と結び付いた専修学校留学生の就職促進や、ASEAN を中心とした多国籍な留学生の受け入れに伴う新たな課題への対応である。

具体的には以下の課題がある。

1. 多国籍な留学生の受け入れの促進のために、WEB を活用した多言語の情報発信を開始するまでになったが、目的を見極め開発と運用方法の検討が必要である。
2. 留学生受け入れが促進された結果として、多国籍な留学生受け入れが活性化してきているが、新たな課題も浮かび上がっている。それは非漢字圏からの留学生の日本語教育や、開発途上国からの留学生の生活支援など、受け入れ体制の未整備にも関わらず、性急な留学生受け入れが進んでいることからくる課題である。これらは関西の専修学校でまだ顕在化している課題ではないが、今後顕在化する可能性が高く、専修学校として留学生受け入れの一翼を担う立場で、十分な整備を進めるとともに、大学、日本語学校と連携を取って課題解決に取り組む必要がある。
3. 国内外の機関への専修学校の魅力発信と、これらを実地体験する連携授業実施の推進などによる、日本の専修学校教育の普及、プレゼンスの向上への努力が必要である。
4. 地域中小企業、団体との連携強化により、専修学校留学生の就職促進に焦点を置いた啓発事業や、インターンシップ事業の運用改善や強化が必要である。
5. 多国籍な留学生受け入れにともない「留学生基礎力」を改善するとともに、国内外へ普及する。同時に、専修学校の日本人学生へのグローバル教育の展開のためにも、留学生基礎力を活用したグローバル教育へ深化させる取り組みが必要である。

第4章：提言 2014

(1) 趣旨

大専各は文部科学省の委託事業として「専修学校留学生総合支援プラン」とそれに続く「専修学校留学生就職アシスト事業」を受託し、「関西型留学生就職支援基盤の構築」「関西型留学生就職支援基盤の活用」「関西型専修学校留学生就職支援システム・拠点整備事業」を継続的に展開してきました。それによって、専修学校留学生に対して就職の全体スキームの確立、地域での産官学のネットワーク形成、留学生職業教育の内容の開発と啓発を続け、関西の地域において留学生の日本就職が、社会一般に必要であると認知されるに至っています。しかしながら専修学校留学生の受入から就職までのワンストップサービスはまだ十分に定着しているとは言い難く、送り出し国においても専修学校留学生の職業教育の質の高さが十分に認知されるまでには至っていません。

一方、企業の海外進出、とりわけ地域中小企業海外進出に伴って必要とされるグローバル人材の育成と確保という課題は十分には解決されておらず、なお試行錯誤の中にあります。またこの企業ニーズの増大に伴い多国籍で多様な文化を持つ留学生の受け入れがこれまでにないスピードで進みだしていますが、受入れ体制の整備も十分には整ってはならず、新たな課題も生まれ出しています。

留学生に対する職業教育の質の高さと産官学の強い絆を持つと自負する私たち関西の専修学校は、これまでの成果をより推進するため重点的な施策の実現、新たな課題の解決をリードするべき立場にあると信じております。そのため、これまでの提言を踏まえ、今年度は以下の提言を、行政、業界団体、産業界へ行います。

(2) 5つの提言

提言1 多国籍で多様な文化を持つ留学生の受入れ体制の整備・拡充を。

日中関係の変化と地域産業界のASEAN地域への進出の本格化に伴い、ベトナム、ネパールを始めとする多国籍で多様な文化を持つ留学生の受け入れがこれまでにないスピードで進みだしています。そのためこれら開発途上国の留学生受入の体制の整備・拡充が急務となっています。

第1に、日本留学に関わるあらゆる機関に対し、送り出し国への日本留学についての正確な情報提供と適切な受入促進を求めます。

第2に、専修学校においては、中国からの受け入れ急増時に「専門学校留学生受入に関する自主規約・ガイドライン」を制定して適切な留学生受入を確認しました。この自主規約・ガイドラインを今一度全国の会員校へ周知・啓発し適切な留学生受入を推進すること。また、現在各校で努力している途上国留学生の日本語教育、生活支援の取り組みを地域全体の受入れ体制の整備の課題として取り上げ、受け入れ研修会などを通して受入れ体制を整備・拡充すること。

第3に、これらの国の受入の窓口の役割を担っている国内日本語教育機関と協力して、秩序だった受入の促進、課題解決を促進すること。日本語科をもつ専修学校は率先してその行動を行って参ります。

第4に、従来の受け入れ推進一辺倒ではなく適切な受け入れにも改めて全面的に協力し、入国管理政策を担当する入国管理局と業界団体との定期的な懇談を実現することなどが求められています。

提言2 留学生を日本に引き付ける日本の魅力と専修学校の職業教育の魅力を世界へ発信。

留学生の獲得は、現在国際間の競争状況にあります。いかに優秀な留学生を自国に受け入れ、自国に優れた国際人材を取り組むかは、世界的な競争状況にあります。そのために各国とも自国の文化と魅力の発信にしのぎを削っている状況です。その点では大阪・関西は歴史的、文化的に多くの観光資産をもっており、この魅力発信による関西への観光客の増加が、留学生の増加のインフラになることは言うまでもありません。すでに受け入れている留学生を活用した地域観光産業界との協力による「関西の魅力」の発信などが求められています。

また、留学生の送り出し国に、WEBを活用した多言語での情報発信を強化することも求められています。日本の専修学校の多様な職業教育は世界のトップ水準にあり十分に世界の若者を魅了する内容をすでにもっています。これら専修学校の職業教育の魅力をいかに効果的に発信するか、世界の若者に届けるか。この情報発信にさらに工夫と努力が求められています。

提言3 留学生基礎力の拡充、専修学校の留学生職業教育・グローバル教育の深化と普及を。

私たちは、企業のニーズに基づいた人材育成の観点から、留学生が日本企業に就職するために必要な力の養成を「留学生基礎力」として開発し普及に取り組んできました。教育の着地点である出口部分の就職のニーズから開発されたこの留学生基礎力をさらに普及すること、カリキュラム・教材を、ブラッシュアップして成熟化させるとともに、これを国内外へ普及することが重要だと考えています。

また今後増加するASEAN諸国を中心とした多国籍で多様な文化をもつ留学生にも十分対応できるような内容を拡充することも求められています。とりわけ非漢字圏の学生への日本語力、日本語コミュニケーション力、ビジネス日本語の強化を目的とした教育の充実が必要で、効果的な学習法の開発、検定化への取り組みが求められています。

また留学生基礎力の取り組みを単に留学生単独の教育に終わらせるのではなく、専修学校全体のグローバル教育の充実の観点からも取り組み、全体としての専修学校教育の振興へとつなげる努力も求められています。

提言4 留学生就職支援基盤の充実により専修学校留学生の更なる就職促進を。

留学生の就職を支援する産官学のネットワークは整備がされだし、留学生の日本就職の概念が日本社会の就職活動、採用活動の中に定着し始めています。企業の合同説明会や留学生のためのインターンシップなども活発に実施されるようになってきました。しかしながら専修学校が送り出す留学生に対しての質の高さの認識が行政、企業に十分に浸透してはいません。

高度専門士や、今後始まる職業実践課程、母国の大学卒の専門学校入学者の存在など、質の高い多様な職業教育について、今後さらに行政機関、企業への啓発の活動が必要です。同時に、専修学校の留学生の日本就職の拡大には、地域中小企業との連携強化と有償インターンシップなどの効果的な取り組みを重点的に推進することが求められています。

提言5 専門学校の各分野留学生の日本就職の制限となっている「在留資格制度」の

早期の改定を！

留学生の日本就職への門戸が大きく開かれつつあり、法制度においても、従来の在留資格の運用の弾力的運用、卒業後の就職活動を保証するための在留制度の実現など、大きく整備がなされてきました。しかしながら、留学生にとって日本の魅力であり、人気分野である調理、製菓、理美容、介護福祉などの専門学校の重要な教育分野は、いまだに留学生の日本就職が制限されています。これらの分野は日本の文化発信にとって国家戦略ともなる分野であり、十分に高度な人材及び中堅人材の育成分野であるので、早期の在留資格の緩和または新しい在留資格の実現を求めます。特に、高度専門士や職業実践専門課程の修了者については、特段の配慮を求めます。

第5章：成果の普及

(1)事業の周知実績

今年度は、下記の講演の機会を得て、事業の周知及び成果の報告を行った。

- 1) 留学生職業人育成セミナー講演
- 2) 合同企業説明会（一般財団法人職業教育・キャリア教育財団との連携事業）での周知
- 3) 大阪府国際化戦略アクションプログラム事業・教育機関受入担当者研修会での周知
- 4) 大阪府国際化戦略アクションプログラム事業・企業留学生採用担当者研修会での周知

(2)報告書配布先

- 1) （一社）大阪府専修学校各種学校連合会 会員校
- 2) 都道府県専修学校各種学校協会等
- 3) 他府県の留学生受入専門学校
- 4) 全国日本語学校
- 5) 官公庁
- 6) 在関西総領事館
- 7) 大阪府内 大学
- 8) 留学生採用に関心の高い企業

(3)広報予定

本事業の広報を、以上の機関に加え、次の機関にも行う予定である。また、サイトを活用し、国内外に広報する。

- 1) 大阪府庁
- 2) 大阪市役所
- 3) 財日本語教育振興協会
- 4) 独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）
- 5) 公益社団法人関西経済連合会
- 6) 文部科学省
- 7) 経済産業省
- 8) 法務省
- 9) 外務省
- 10) 領事館
- 11) 大学コンソーシアム大阪
- 12) 南大阪大学コンソーシアム
- 13) 大阪商工会議所
- 14) （一財）大阪労働協会

等

事業実施体制

(1)実施委員会

実施委員会			
氏名	所属・職名	役割等	所属機関の URL
福田 益和	(一社)大阪府専修学校各種学校連合会 理事長 大阪工業技術専門学校	委員長	www.fukuda.ac.jp
長谷川 恵一	エール学園	副委員長	www.ehle.ac.jp
上田 哲也	(一社)大阪府専修学校各種学校連合会 副理事長 上田安子服飾専門学校		www.ucf.jp
平岡 憲人	清風情報工科学院 日本語教育振興協会京阪名地区評議員		www.i-seifu.jp www.nisshinkyu.org
瓶井 修	日本メディカル福祉専門学校		www.kamei.ac.jp
富永 桂多	関西外語専門学校		www.tg-group.ac.jp
田中 祐司	辻調理師専門学校		www.tsuji.ac.jp
高田 直樹	ホスピタリティーツーリズム専門学校大阪		www.trajalinternational.info
大西 宏史	ECC国際外語専門学校		japan.ecc.ac.jp
三枝 省三	修成建設専門学校		www.syusei.ac.jp
鱧谷 貴	大阪商工会議所		www.osaka.cci.or.jp
佐々木 順一	(一財)大阪労働協会		www.jobcafeosaka.jp
渋谷 晴正	株式会社凡人社		www.bonjinsha.com
ワーキングメンバー			
長谷川 恵一	エール学園	委員長	www.ehle.ac.jp
上田 哲也	上田安子服飾専門学校		www.ucf.jp
平岡 憲人	清風情報工科学院	副委員長	www.i-seifu.jp
佐藤 裕幸	大阪 YMCA 国際専門学校		www.osk-ymca-intl.ed.jp
瓶井 修	日本メディカル福祉専門学校	副委員長	www.kamei.ac.jp
富永 桂多	関西外語専門学校	副委員長	www.tg-group.ac.jp
三枝 省三	修成建設専門学校		www.syusei.ac.jp
崎村 真	エール学園		www.ehle.ac.jp
西村 康司	エール学園		www.ehle.ac.jp
津川 龍一	大阪エンタテインメントデザイン専門学校		www.ucf.jp
古畑 和彦	清風情報工科学院		www.i-seifu.jp
木村 泰一	ECC 留学生センター		www.global.ecc.ac.jp
山佐 亜津子	大阪 YMCA 国際専門学校		www.osk-ymca-intl.ed.jp
瓶井 剛	日本メディカル福祉専門学校		www.kamei.ac.jp
川鍋 史一	森ノ宮医療学園専門学校		www.morinomiya.ac.jp
鈴木 秀和	トラベルジャーナル学園		www.osaka.trajal.ac.jp
浜野 哲二	大阪工業技術専門学校		www.oct.ac.jp
白川 啓子	大阪YWCA 専門学校		www.osaka.ywca.or.jp
船戸 輝久	大阪 YMCA 国際専門学校		www.osk-ymca-intl.ed.jp

(2)事業実施協力機関等（本事業実施にかかる協力団体や機関を記載）

団体名、機関名等
近畿地区専修学校各種学校会員校
(財)日本語教育振興協会
大阪商工会議所
(一財)大阪労働協会
株式会社凡人社
日本貿易振興機構
(公社)関西経済連合会
株式会社WAVE
大阪府府民文化部私学・大学課

平成25年度文部科学省受託事業
「専修学校留学生就職アシスト事業関西型専修学校留学生就職支援システム・拠点整備事業」
大阪府内の高等教育機関における日本人の海外研修実態調査

【集計結果】
平成26年2月

(平成26年3月26日改版)

■ 調査概要

調査目的

大阪府内の高等教育機関における日本人を対象とした海外研修の実施状況や実施内容をあきらかにし、専修学校各種学校（以下、「専門学校」と記す）の国際化を推進する施策を立案するための基礎資料とする。

（一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会（以下、「大専各」と記す）では、文部科学省の平成25年度「専修学校留学生就職アシスト事業」の受託事業として「関西型専修学校留学生就職支援システム・拠点整備事業」に取り組んでいる。同事業は、外国人留学生の日本での就職を促進することを目的としているが、専門学校の国際化においてもうひとつの柱である日本人学生の海外送り出しの推進をめざしている。その実態把握として今年度、専門学校と大学の日本人学生を対象とした海外研修の実態を調査した。）

調査方法

郵送による調査（郵送による調査票の送付・回収）

実施時期

平成25年11月

調査対象校

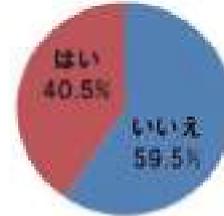
- ①大阪府認可・専修学校各種学校222校
111校回収（回収率50%）
※111校中研修事例回答校数45校（研修事例数61件）
- ②大学（大阪府内）6大学
4大学回収（回収率66.7%）
※4大学中研修事例回答大学数4校（研修事例数12件）
- ③ヒアリング調査
上田安子服飾専門学校

大阪府内の高等教育機関における日本人の海外研修実態調査
◆1. サマリー<専門学校調査結果> (1/4) ◆

1) 専門学校の海外研修実施率

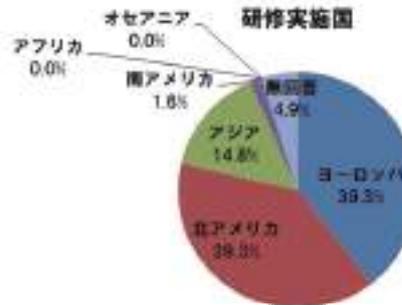
実施約40.5% (45校/111校中)

海外研修実施の有無



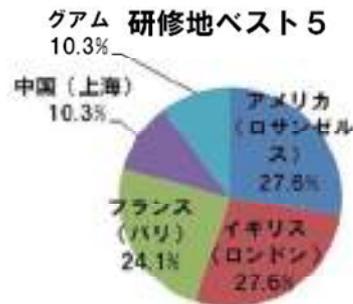
2) 研修実施国

- 1位: 北アメリカ (39.3%)
- 1位: ヨーロッパ (39.3%)
- 3位: アジア (14.8%)
- 4位: 南アメリカ (1.6%)



3) 研修地 ベスト5

- 1位: アメリカ (ロサンゼルス) (27.6%)
- 1位: イギリス (ロンドン) (27.6%)
- 3位: フランス (パリ) (24.1%)
- 4位: 中国 (上海) (10.3%)
- 4位: グアム (10.3%)



4) 実施時期

- 11月実施 (19.7%)
- 12月実施 (13.1%)
- 10月実施 (11.5%)
- 3月実施 (9.8%)



5) 宿泊日数

- 5泊 (23.0%)
- 6泊 (18.0%)
- 8泊 (16.4%)
- 3泊、10泊、長期5件 (8.2%)
 - ・長期の内訳
 - 4ヶ月 (1件)、6ヶ月 (2件)、10ヶ月 (2件)

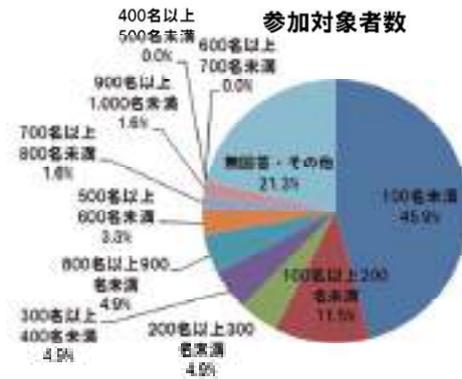


◆1. サマリー<専門学校調査結果> (2/4) ◆

6) 参加対象者数

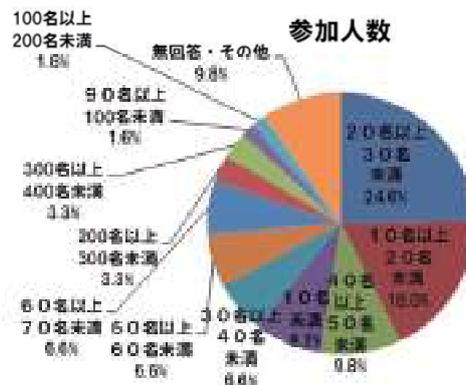
100名未満 (45.9%)
 100名以上~200名未満 (11.5%)
 200名以上~300名未満 (4.9%)

700名以上1,000名未満 (3.2%)
 ・上記参加対象者数の学校は、自校のグループ校等に在籍する全学生を対象に実施している。



7) 参加人数

50名未満が約半数を占める。



8) 費用 (一人あたり)

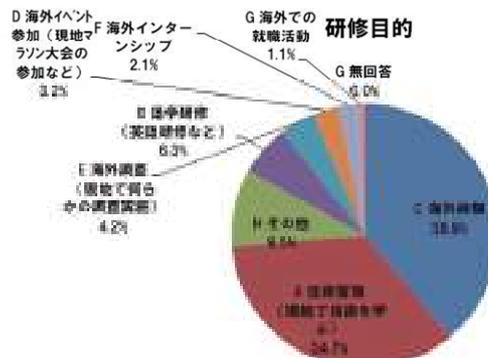
30~40万円 (32.8%)
 20~30万円 (27.9%)
 両方合計で60.7%

300万円以上は、留学制度等を利用した場合の費用。



9) 研修目的 (複数回答)

海外体験 (38.9%)
 技術習熟 (34.7%)
 語学研修 (6.3%)
 海外調査 (4.2%)
 海外イベント参加 (3.2%)
 海外インターンシップ 2件 (2.1%)
 海外での就職活動 (1.1%)



◆1. サマリー〈専門学校調査結果〉(3/4)◆

10) 分野別研修目的の特色(自由回答のまとめ)

○大阪府の専修学校認可校は、以下の8分野に分類されるため、その分野別の特徴を整理します。

「1工業」 数日の海外研修だけではなく、海外インターンシップなどに取り組んでいる学校がある

- ①海外でライセンス取得
米国での操縦士ライセンス取得
- ②日系企業でインターンシップ、ホームステイ、語学留学などの各校さまざまな取り組みを行っている。

「2服飾・家政」 ファッションの先進地域でのリサーチや海外体験を重視する傾向にある

- ①現地での実習などはほとんどなく、ショッピングリサーチや海外体験中心の研修が多い

「3商業」 海外体験、語学力UPを重視する傾向にある

- ①海外体験中心の研修が多い

「4医療」 医療技術の向上を目的とした実践的研修、実習を実施する学校がある

- ①医療技術の向上を目的とした実践的研修
歯科のマイスター学校での講義や技巧所見学、歯科技工士学校で学生間交流
日本と海外の救急医療体制の違いを学ぶ等、技能研修や講義の実施
中国の姉妹提携校で短期留学基礎医学実習、解剖研修の実施
- ②看護は、病院見学などを中心に実施

「5衛生」 長期留学制度によるプロの育成や現地一流施設での実習を実施する学校がある

- ①調理師学校のフランス留学制度(調査校の一例)
一流のフランス料理と製菓を学ぶため、10ヶ月のフランス留学実施(フランス校に留学)
初めの5ヶ月はフランスにある星付きレストランや世界的に有名な製菓店で実施研修を実施し、
プロの料理人育成を目的としたカリキュラムとなっている
- ②美容系学校の実習内容
本場ハリウッドの有名ヘア・メイク・エステ講習や現地施設の見学など、
業界の本場でのさまざまなカリキュラムを実施

「6教育・福祉」 海外研修を実施しない学校が多い

- ①調査校5校中1校のみ海外研修を実施、海外での研修に必然性を感じていない学校が多い

「7文化・教養」 本場のメイク、芸術を体感できる研修、実習を重視する傾向にある

- ①美容系学校
有名メイキャップアーティストの講習や姉妹校での授業や現地施設の見学など、その業界の本場で授業に直結したカリキュラムを実施
- ②音楽・ダンス系学校
本場のミュージカルを観たり、提携校での実習など、①と同様その業界の本場で授業に直結したカリキュラムを実施
- ③ホテルサービス系の現地インターンシップ実施
「タイ・ホテルインターンシップ実習」を実施している学校がある(1校)
- ④海外でライセンスを取得
スキューバダイビングライセンス取得

「8農業」に属する学校からの回答は0件

◆1. サマリー〈専門学校調査結果〉（4/4）◆

1.1) 教育上の成果（自由回答より抜粋）

- ・専門技術の向上
- ・視野の広がり、グローバルな考え方が身に付く
- ・学生のモチベーションアップ
- ・コミュニケーション力の向上
- ・英語力の必要性を実感
- ・海外インターンシップによる現地就職の可能性

1.2) 実施上での課題・問題点（自由回答より抜粋）

- ・研修費用の学生への負担（費用の問題により、参加できない学生がいる）
- ・現地での学生の健康管理、安全管理
- ・定員に達しない
- ・研修前の事前指導や実施するうえでの運営人員不足
- ・カリキュラム外で実施できる時間がない

1.3) 実施していない理由（自由回答より抜粋）

- ・定員に達しない、以前実施していたが希望者がすくないため、中止
- ・必要性がない
- ・費用の問題
- ・教員への負担

大阪府内の高等教育機関における日本人の海外研修実態調査
 ◆2. 集計結果<専門学校調査結果> (1/2) ◆

1. 貴校では、日本人対象とした海外研修を実施しておられますか？

回答	はい	いいえ	無回答	合計
校数	45	66	0	111
%	40.5%	59.5%	0.0%	100.0%

2. どのような海外研修を実施されていますか？具体的な内容をご記入ください。（実施校のみ回答）

・調査対応期間：2012年4月1日から2013年3月31日

①研修先（国名、地名）

○世界地域区分

地区	ヨーロッパ	アジア	アフリカ	北アメリカ	南アメリカ	オセアニア	無回答	合計
件数	24	9	0	24	1	0	3	61
%	39.3%	14.8%	0.0%	39.3%	1.6%	0.0%	4.9%	100.0%

○研修地 ベスト5

	1位	1位	3位	4位	4位	ベスト5合計
研修地	アメリカ (ロサンゼルス)	イギリス (ロンドン)	フランス(パリ)	中国(上海)	グアム	
校数	8	8	7	3	3	29
%	27.6%	27.6%	24.1%	10.3%	10.3%	100.0%

②実施期間（実施期間が月をまたいでいる場合は、日数の多い月でカウントしています。）

回答	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
校数	3	3	6	1	4	3	2	2	4
%	4.9%	4.9%	9.8%	1.6%	6.6%	4.9%	3.3%	3.3%	6.6%
	10月	11月	12月	長期	無回答	合計			
	7	12	8	5	1	61			
	11.5%	19.7%	13.1%	8.2%	1.6%	100.0%			

③宿泊日数

回答	3泊	4泊	5泊	6泊	7泊	8泊	9泊	10泊	11泊
件数	5	3	14	11	2	10	3	5	1
%	8.2%	4.9%	23.0%	18.0%	3.3%	16.4%	4.9%	8.2%	1.6%
	18泊	長期	無回答	合計					
	1	5	1	61					
	1.6%	8.2%	1.6%	100.0%					

◆ 2. 集計結果<専門学校調査結果> (2/2) ◆

④参加対象人数

回答	100名未満	100名以上200名未満	200名以上300名未満	300名以上400名未満	400名以上500名未満	500名以上600名未満
校数	28	7	3	3	0	2
%	45.9%	11.5%	4.9%	4.9%	0.0%	3.3%
	600名以上700名未満	700名以上800名未満	800名以上900名未満	900名以上1,000名未満	無回答・その他	合計
	0	1	3	1	13	61
	0.0%	1.6%	4.9%	1.6%	21.3%	100.0%

⑤参加人数

回答	10名未満	10名以上20名未満	20名以上30名未満	30名以上40名未満	40名以上50名未満	50名以上60名未満	60名以上70名未満
件数	5	11	15	4	6	4	4
%	8.2%	18.0%	24.6%	6.6%	9.8%	6.6%	6.6%
	90名以上100名未満	100名以上200名未満	200名以上300名未満	300名以上400名未満	無回答・その他	合計	
	1	1	2	2	6	61	
	1.6%	1.6%	3.3%	3.3%	9.8%	100.0%	

⑥費用 (一人あたり)

費用	10万円未満	10万円以上20万円未満	20万円以上30万円未満	30万円以上40万円未満	40万円以上50万円未満	90万円以上100万円未満
校数	4	8	17	20	4	1
%	6.6%	13.1%	27.9%	32.8%	6.6%	1.6%
	300万円以上400万円未満	無回答・その他	合計			
	7	0	61			
	11.5%	0.0%	100.0%			

⑦貴校が実施している海外研修を下記のジャンルにあてはめるとすれば、どれにあたりますか？
(下記のAからHの中から選択してください/複数回答可)

回答	A	B	C	D	E	F	G
	技術習熟 (現地で技術を学ぶ)	語学研修 (英語研修など)	海外体験	海外イベント参加 (現地マラソン大会の参加など)	海外調査 (現地で何らかの調査実施)	海外インターンシップ	海外での就職活動
件数	33	6	37	3	4	2	1
%	34.7%	6.3%	38.9%	3.2%	4.2%	2.1%	1.1%
	H		合計				
	その他	無回答					
	9	0	95				
	9.5%	0.0%	100.0%				

◆ 3. 今後実施の計画・予定はございますか？ (現在実施していない学校対象のアンケート)

回答	はい	いいえ	無回答	合計
人数	3	53	10	66
%	4.5%	80.3%	15.2%	95.5%

大阪府内の高等教育機関における日本人の海外研修実態調査
 ◆3. 分野別集計結果<専門学校調査結果> (1/1) ◆

○大阪府の専修学校認校は、以下の8分野に分類されます。その分野別の特徴を検証します。

1) 専門学校分野別 研修実施校数

回答	1工業		2服飾・家政		3商業		4医療		5衛生		6教育・社会福祉		7文化・教養		8農業		9不明		
	実施	なし	実施	なし	実施	なし	実施	なし	実施	なし	実施	なし	実施	なし	実施	なし	実施	なし	
校数	5	15	2	7	3	4	12	23	8	5	1	4	12	5	0	0	0	0	5

分野別 研修実施率

「工業」25.0%、「服飾・家政」22.2%、「商業」42.9%、
 「医療」34.3%、「衛生」61.5%、「教育・社会福祉」20.0%、「文化・教養」70.6%、

2) 専門学校分野別 実施内容

回答	A	B	C	D	E	F	G	H	無回答	合計
	技術習熟 (現地で技術を学ぶ)	語学研修 (英語研修など)	海外体験	海外イベント 参加(現地マ ラソン大会の 参加など)	海外調査 (現地で何ら かの調査実 施)	海外イン ターンシッ プ	海外での就 職活動	その他		
1. 工業	3	1	5	1	1	1	0	1	0	13
%	23.1%	7.7%	38.5%	7.7%	7.7%	7.7%	0.0%	7.7%	0.0%	100.0%
2. 服飾・家政	0	0	4	0	3	0	0	0	0	7
%	0.0%	0.0%	57.1%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
3. 商業	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
4. 医療	11	3	9	0	0	0	0	3	0	26
%	42.3%	11.5%	34.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.5%	0.0%	100.0%
5. 衛生	7	0	5	0	0	0	0	0	0	12
%	58.3%	0.0%	41.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
7. 文化・教養	11	0	15	0	0	1	1	6	0	34
%	32.4%	0.0%	44.1%	0.0%	0.0%	2.9%	2.9%	17.6%	0.0%	100.0%

「教育・社会福祉」は、回答なし、「農業」は、属する学校からの調査票回収なし

分野別 研修実施内容

「工業」 海外体験38.5%、技術習熟23.1%
 「服飾・家政」 海外体験57.1%、海外調査42.9%
 「商業」 技術習熟、語学、海外体験とも33.3%
 「医療」 技術習熟42.3%、海外体験34.6%
 「衛生」 技術習熟58.3%、海外体験41.7%
 「文化・教養」 海外体験44.1%、技術習熟32.4%

◆ 4. 大学調査結果のまとめ (2/4) ◆

【大阪府内の大学B】(研修2例回答)

1. 貴校では、日本人対象とした海外研修を実施しておられますか？ ■はい

◆実施1◆

- ①研修先(国名、地名) カンボジア(プノンペン、シェムリアップ、プレイベン州)
- ②期間: 2013年8月18日~8月29日(1泊12日)
- ③目的: 海外体験 その他
- ④定員: 7名
- ⑤参加人数: 9名
- ⑥費用(本人負担額/1名あたり: 185,000円)

◆実施2◆

- ①研修先(国名、地名): 海外チャレンジ研修(行き先: アメリカ、オーストラリア、イギリス、NZ)
- ②期間: 夏期休暇、春期休暇を利用して1週間~8週間
- ③目的: 語学研修、海外体験 その他
- ④定員: 1名
- ⑤参加人数: 12名
- ⑥費用(本人負担額/1名あたり: 行き先により異なる)

2. 教育上の成果をお聞かせください。

海外研修に参加した学生は、自然に主体性が磨かれ、それに伴いコミュニケーション能力が向上する傾向が見られる。また、協調性(特にチームワークを大切にする)や責任感を強くなり、大きく成長する姿も見受けられる。

3. 実施上での課題・問題点をお聞かせください。

海外研修での危機管理意識を高めるために事前研修(危機管理オリエンテーションを実施し、危機意識や海外での必要な知識やマナー等を指導)を実施しているが、近年の学生の風潮として、海外に行っても、日本と同様に「何とかなるだろう」、「自分は危ない目に遭わないだろう」と安心している傾向が多く見受けられ、危機意識がなかなか伝わらない。

◆ 4. 大学調査結果のまとめ (3/4) ◆

【大阪府内の大学C】(研修1例回答)

1. 貴校では、日本人対象とした海外研修を実施しておられますか？ ■はい

◆実施1◆

- ①研修先 (国名、地名)：イギリス (グラスゴー、湖水地方、ロンドン)
- ②期間：2012年9月7日～9月17日 (10泊11日)
- ③目的：海外体験
- ④定員：40名
- ⑤参加人数：12名
- ⑥費用 (本人負担額/1名あたり)：295,000円)

2. 教育上の成果をお聞かせください。

海外研修に参加することで、直接現地で体験する文化が、その国の国民生活から見出されることを、専門領域において認識できること。

3. 実施上での課題・問題点をお聞かせください。

問題点として、学生の参加者数が年々減少していることが挙げられる。
海外研修でなければ体験できないことをテレビなどの映像や画像で満足してしまっていることと、経済的な理由により、海外研修に対しての意欲が低下してきている。

◆ 4. 大学調査結果のまとめ（4/4） ◆

【大阪府内の大学D】(研修4例回答)

1. 貴校では、日本人対象とした海外研修を実施しておられますか？ ■はい

◆実施1◆

- ①研修先（国名、地名）：韓国、中国
- ②期間：2013年8月～9月（13泊14日）
- ③目的：海外体験（研修名：日本語ティーチングアシスタント）
- ④定員：約20名
- ⑤参加人数：11名
- ⑥費用（本人負担額/1名あたり）：70,000～85,000円

◆実施2◆

- ①研修先（国名、地名）：タイ
- ②期間：2012年12月11日～12月21日（10泊11日）
- ③目的：海外体験（研修名：タイボランティアワークキャンプ）
- ④定員：6名
- ⑤参加人数：6名
- ⑥費用（本人負担額/1名あたり）：70,000円

◆実施3◆

- ①研修先（国名、地名）：韓国、オーストラリア
- ②期間：2013年3月10日～3月23日（13泊14日）
- ③目的：海外体験（研修名：語学文化体験）
- ④定員：なし
- ⑤参加人数：15名
- ⑥費用（本人負担額/1名あたり）：60,000～258,000円

◆実施4◆

- ①研修先（国名、地名）：韓国
- ②期間：2013年2月28日～6月（約4か月）
- ③目的：語学研修、海外体験（研修名：交換留学）
- ④定員：数名
- ⑤参加人数：1名
- ⑥費用（本人負担額/1名あたり）：—

2. 教育上の成果をお聞かせください。

内向き志向の学生にとって、日本から飛び出し現地の学生と交流し文化を体験することは、オフキャンパス学習の柱として、本学が教育目標に掲げている実践的職業人の育成に繋がる。特に語学面や生活面での苦労は帰国後の学習意欲や主体的行動力の向上に大きな成果を見せている。

3. 実施上での課題・問題点をお聞かせください。

- ・効果的な学生募集方法
- ・学生の語学力
- ・経済的に厳しい学生の増加

◆5. ヒアリング結果（1/3）◆

「大阪府内の高等教育機関における日本人の海外研修実態調査」ヒアリング内容

1. 実施概要

実施日：2013年12月18日 13:30-14:30

ヒアリング対象者：上田安子服飾専門学校

ヒアリング調査員：一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

2. 研修概要

研修内容	研修1	研修2
研修先	イギリス（ロンドン）	アメリカ（ニューヨーク）
期間	2013年12月22日～27日（4泊6日）	2013年2月18日～25日（5泊7日）
目的	・語学力アップを含めた異文化体験を通してグローバルで適応できる人間力を磨く。	・グローバルな人材育成 ・ニューヨークの言語、文化に直接触れる ・ファッションショップのリサーチ
研修ジャンル	海外体験	海外調査、海外体験
参加対象者	在校生全員800名（上田安子服飾専門学校、大阪総合デザイン専門学校全在校生対象）	ファッション・プロデュース学科1年全員 28名
参加人数	92名	同上
教育上の成果	・先進国人の価値観やライフスタイル、芸術などを見聞し、教育上の観点から、学生たちへの新たな視点や、感性、自立心を育成する。	・グローバルな人材育成の場において、各自が異文化への適応力を実感することができる。 ・学習言語に対して学習意欲の向上。
課題・問題点	・国や地域による最適な実施時期の実施 ・海外イベントとの連動	・日常の学習とより関係付け ・学生の成長の契機になるような研修内容の検討 ・海外アパレル企業、ファッション学校との関わり
費用	180,000円	56,000円 ファッション・プロデュース学科において海外研修は全員参加。費用はあらかじめ学費の中に組み込まれている。
実施担当部署	教務部	ファッション・プロデュース学科
今後の実施予定	2014年12月23日～28日 パリ 対象者：在校生対象	2014年2月17日～22日 ニューヨーク・ミラノ 対象者：ファッション・プロデュース学科1,2年

3. ヒアリング内容

（1）イギリス（ロンドン）、フランス（パリ）海外研修について

1) 目的

在校生全員を対象とした海外研修で、2カ国交互に各年で実施しています。

本海外研修は、海外体験を主な目的としています。特にパスポート取得経験がなく、海外に行ったことがない学生に取得手続きや海外を体験させることを目的としています。

2) 実施概要

昔から続けている研修実施国で、2カ国交互に各年実施し、1990年から20年以上実施しています。

2010年までは現地でファッションショーを実施し、3月に研修を行っていました。

初期は、自主開催していましたが、現地に提携校ができて連携して実施するようになりました（提携現地校はファッション系ではなくアートスクールで、学生の作品をビデオ化するという連携内容）。2011年以降は、諸事情により実施内容を変更せざるを得なくなりました。諸事情の一つは、費用についてです。学費とは別途費用のため、不参加の学生が増えました。また、カリキュラム外での実施であったため、単位という教務上の理由から12月下旬の冬季休暇時期に実施することに変更となりました。当時の学生は、欠席扱いで参加していました。また、ショーを現地で行うために

◆5. ヒアリング結果（2/3）◆

は、職員を現地に10名以上派遣しなければならず、教職員の負担も大きい運営体制でした。カリキュラム外での実施では、ファッションショーを行なう時間をとることができず、現在の形になりました。

3) 実施時期

今年は、年末の強硬スケジュールでの実施ですが100名を越える学生が参加しています。本校は2年制と3年制がありますので、各年で2国交互に実施して、どちらかには参加できるよう機会を提供しています。学園全学生を対象に募集しているので、毎年参加することも可能です。以前は最終学年に参加する学生が多かったのですが、昨今は就職活動時期の早期化や就職環境も厳しいため、最終学年の参加率は減少しています。景気の影響もありますが、就職が決まっていない場合の参加は厳しいので、2年制は、1年次で、3年制は、2年次に行くことが多くなっています。クリスマスなどの安い時期で、なおかつ授業が終了する12月20日以降に実施しています。授業のない時期は、12月から3月、3月のほうが気候がよいのですが費用が高いので、旅費を抑えてできるだけ多くの学生に参加してほしいとのことで12月に実施しています。

4) 研修プログラム、オプションツアー

教会に行ったり、クリスマス時に営業しているお店で食事をしたり、オプションツアーに参加。クリスマス後は、信徒以外のお店は、一部営業しているので覗いてまわることができます。参加者110数名のうち、50、60名はオプションツアーに参加予定です。毎年概ね同様の参加数です。

オプションツアーは、刺繍専門店見学などがあります。旅行会社と連携して趣向を凝らした本校ならではのオプションツアーの提供を行っています。過去、参加人数が30名程度と小規模であった頃は、ディオールショー見学ツアーなどがありましたが、現在は上記通りの大規模実施のため難しい状況です。クリスマス時期なので、できることに制限がありますが、クリスマス後は、クリスマス前と比べると店が開いていることも多いとのことなので、洋服店等を見てまわることもしやすいと思います。「海外体験」が主目的なので、参加することに意味があります。現地に行ってホテルで終日を過ごす、ホテル暮らしをしてみたいという学生もいます。それも「体験」ということで理解しています。

5) 研修成果

本海外研修は、海外体験を主な目的としています。英語の必要性を感じて、研修後、学生が個々に海外旅行に行くことができるきっかけ、環境を作っています。

(2) ファッション・プロデュース学科の海外研修について

1) 目的

ファッション・プロデュース学科の海外研修は、授業内研修と位置付け、旅費は、学費の中に含まれており、1クラス全員参加です。1年次はニューヨーク、2年次はミラノに行く予定です。現地のファッション事情やショッピングリサーチをすることが研修目的です。企業ニーズに即し、海外で通用する人材を育成する目的で海外研修を行っています。また、本学科では、1、2年では週1回英語の授業が組み込まれています。1年の海外研修で英語の成果を確認することができます。しかし本校の英語の授業はきっかけでしかありません。ニューヨークに行ったことで、英語を勉強なくてはと奮起する機会にもなります。休学して海外留学する学生もいます。

2) ファッション・プロデュース学科の概要

本学科は4年制の高度専門士の学科です。「専門の能力を持った総合職」として育成をめざしています。海外で働くことができる能力を身につけること、総合職で働くことを目標とした学科です。服飾業界の総合職で働くということは、今後、「国内に留まって働く」ということは考えにくく、海外とのやりとりも不可欠となります。

アパレル業界の職種は、マーチャンダイザー、デザイナー、パタンナーという括りが一般的ですが、本学科では通常大学生が採用対象となっている総合職をめざします。カリキュラムには、専門職内容も入っていますので、総合的に勉強することになります。

3) 実施概要

研修課題を授業内で検討、帰国後は研修報告会を実施します。

パリ、ロンドン研修はあくまで「海外体験」、本学科の海外研修は授業として単位を設け、今後海外で活躍する人材

◆5. ヒアリング結果 (3/3) ◆

の育成をめざしています。1年、2年はカリキュラムで海外研修を、3年、4年は、自主的に行くかどうかを判断させるようにしています。ファッション・プロデュース学科の学生がパリ、ロンドンにも行く事は可能ですが、これは課外授業です。

4) 実施時期

実施時期は2月です。本学科は、2年目の学科なので今年で2回目の開催です。

5) 研修の必要性

大手アパレルで海外市場に出ていない企業はないと言ってもよい時代です。本校の学生にはできるだけそのような企業への就職を願っています。また、総合職としてアパレルのみならず、ファッション商品を扱っている商社など従来大学生の就職先である企業へ就職させるというのも、本学科のミッションなので、そのために海外研修を奨励していくこととなります。ファッションの先進地域パリ、ロンドン等はもちろんのこと、今、重要視されているアジア市場においても英語が必須となります。ニューヨークで働く、パリで働くということだけではなく、アジア市場を中心に、グローバル人材が必要とされています。卒業生には、仕事で中国、韓国へ頻繁に行き来をしているものがあります。会話は、ビジネス上は通訳を介しますが、ちょっとしたコミュニケーションをとるのは、直接英語で会話することになります。現在、生産拠点だけではなく、販売拠点としても海外の市場が拡大しています。このように就職先がグローバル化しているので、学生も就職後は英語の必要性に迫られることとなります。一方で本業界の企業は二極化しており、日本生産で高級品を生産する企業もあります。しかし、私たちが就職させたい多くの企業は、海外展開しています。大学生の場合は、TOEIC など自主的に勉強するものもありますが、本校の学生は英語が苦手なものが多いので、勉強をはじめまでの橋渡しとして、きっかけ作りをしてあげることが重要だと考えています。

6) 研修成果

今年で2回目の開催ですので、短期的に評価するのは難しいです。研修の成果、評価については今後検討したいと思います。卒業後、就職先としてニューヨーク、ミラノに行く学生は稀だと思いますが、ファッションの先進地域で学ぶことに意味があります。学生にとって憧れの地であるニューヨーク、ミラノでの海外研修は貴重な体験となります。就職の際、面接などでも自分の目でみたことは言えると思います。語学力のない状態で海外に行ったらどうなるか等の体験もできます。

7) その他

・海外での語学研修等実施の有無

春休み、夏休みの語学研修等の需要が増えています。留学先のコーディネイトや相談など日本語学校と連携しながら学生に案内できる体制をとりたいと思います。

・アパレル業界で注目国は？

企業の方からよくお聞きするのは、ベトナム、インド、ミャンマーなど。近年インドのファッション学校は国をあげて整備が進められていると聞きます。しかし、特定の国に向けて学生を育てるところまでは考えていません。基本的な国際力をどこまでつけてやることのできるかに注力しています。

・アパレル業界の求人で、語学の能力に関する要望はありますか？

中国人留学生を要望される企業はありました。

・現在、海外で活躍されている卒業生は多いですか？

創立以来であれば、100名はいるのではないのでしょうか。海外に住んでいる卒業生もいます。

・英語の授業数を増やす予定は？

増やす予定はありません。語学に興味があれば、自ら学ぶ選択肢はいくらでもあります。それよりは、英語を学ぶきっかけやモチベーションをあげさせることが必要です。学生自身が入りたい企業が海外展開しているので英語が必要と本人が意識したら、勉強すると思います。

・授業内でのグローバル化の取り組みは？

授業内でできる英語の取り組みとしては、英単語をカタカナではなく、英語で書くことを薦めています。実習の授業で「デニム」などのアイテム名を英語表記させています。その理由としてサイトを検索する際、英語で検索するとカタカナ検索よりも、得られる情報量は格段に多いからです。また、今後自分でサイトを立ち上げる際も必要になってきます。海外でも通用するサイトをつくるためにはweb用語なども英語が必須です。

英語以外の授業でもこのように必要に応じて教員が工夫して指導しています。英語嫌いの学生が抵抗なく、より多くの情報を得ることができるように。海外研修とは別の話ではありますが、グローバル人材育成という観点からの本の取り組みです。

大阪府内の高等教育機関における日本人の海外研修実態調査
◆7. 調査票(1/2)◆

平成25年度文部科学省受託事業「専修学校留学生就職アシスト事業／関西型専修学校留学生就職支援システム・拠点整備事業」

大阪府内の高等教育機関における日本人の海外研修実態調査【調査票(専修学校)】

問1. 貴校では、日本人対象とした海外研修を実施しておられますか? はい いいえ
↓質問1で「はい」と回答された方は、「質問2」へ、「いいえ」と回答された方は、「質問5」にお進みください

問2. どのような海外研修を実施されていますか?具体的な内容をご記入ください。
・数件実施されている場合は、可能な範囲で結構ですので、できるだけ多くの実施内容をご記入ください。
・調査対応期間: 2012年4月1日から2013年3月31日

◆実施1◆

- ①研修先(国名、地名):
②期間: 年 月 日～年 月 日まで(泊 日)
③目的(できるだけ具体的な内容をご記入ください。):
- ④参加対象者: ⑤定員: 名 ⑥費用(本人負担額/1名あたり: 円)
⑦人数:(参加対象者数: 名 左記のうち参加した人数: 名) ⑧実施担当部署:
⑨貴校が実施している海外研修を下記のジャンルにあてはめるとすれば、どれにあたりますか?
(下記のAからHの中から選択してください/複数回答可)
- A. 技能習熟(現地で技術を学ぶ)
 - B. 語学研修(英語研修など)
 - C. 海外体験
 - D. 海外イベント参加(現地マラソン大会の参加など)
 - E. 海外調査(現地での何らかの調査を設定して実施する)
 - F. 海外インターンシップ(現地の日系企業でインターンシップを実施する)
 - G. 海外での就職活動
 - H. その他
- ⑩研修内容について①から⑨以外で特筆すべきことがございましたら、ご記入ください。

◆実施2◆

- ①研修先(国名、地名):
②期間: 年 月 日～年 月 日まで(泊 日)
③目的(できるだけ具体的な内容をご記入ください。):
- ④参加対象者: ⑤定員: 名 ⑥費用(本人負担額/1名あたり: 円)
⑦人数:(参加対象者数: 名 左記のうち参加した人数: 名) ⑧実施担当部署:
⑨貴校が実施している海外研修を下記のジャンルにあてはめるとすれば、どれにあたりますか?
(下記のAからHの中から選択してください/複数回答可)
- A. 技能習熟(現地で技術を学ぶ)
 - B. 語学研修(英語研修など)

◆7. 調査票 (2/2) ◆

問3. 教育上の成果をお聞かせください。

問4. 実施上での課題・問題点をお聞かせください。

↓↓「質問5」以降は、「質問1」で「いいえ」と答えられた方がご回答ください

問5. 実施していない理由をお聞かせください。

問6. 今後、実施の計画・予定はございますか。 はい / いいえ

②質問6で「はい」と回答された方にお聞きいたします。実施予定の計画内容の概要を下記にご記入ください。
()

◆ご回答者氏名
学校名

アンケートにご回答いただき、誠にありがとうございました。

担当部署・

役職

フリガナ

電話番号

—

—

氏 名

Email

@

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

※このアンケートによって提供いただいた個人情報に関して、本委託事業及び情報提供以外の目的では使用いたしません。

平成 25 年度文部科学省委託事業「専修学校留学生就職アシスト事業」
関西型専修学校留学生就職支援システム・拠点整備事業
実施報告書

発行日 平成 26 年 3 月 第 1 版
発行者 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会
住所 〒534-0026 大阪市都島区網島町 6 番 20 号
電話番号 : 06-6352-0048 FAX : 06-6352-7553